業務資料No.810

ゆうかり

第17回移住者子弟技術研修生
研　修　レ　ポ　ー　ト

1989年9月

国際協力事業団

移　国
JR
89　4

ゆうかり

第17回移住者子弟技術研修生
研　修　レ　ポ　ー　ト

20259
JICA LIBRARY
1078428[8]

1989年9月

国際協力事業団

国際協力事業団
20254

ま　え　が　き

国際協力事業団では，中南米各地の移住者子弟を本邦に招致し，その子弟の属する地域社会の発展に必要な技術および知識を修得せしめることを目的に移住者子弟技術研修制度を実施している。

この制度は昭和46年度に開始され，受入れた研修生は，現在研修中の第18回生および第19回生を含め，総数406名に達している。

本誌は第17回生（研修期間：18ヶ月コース昭和62年4月～昭和63年9月，24ヶ月コース昭和62年4月～平成元年3月）の研修総括報告書をまとめたものである。

各研修生は幼い頃両親に連れられて移住した人，あるいは中南米の地で生れた二世・三世の人達の中から選ばれた者であるが，父母が生れ育った国における研修は単に技術を身につけるということだけではなく，日本の文化そのものを学ぶ良い機会ともなっている。研修生諸君は帰国後，日本の社会の中で身をもって体得した技術と知識を生かし，移住地および地域社会の発展に貢献するとともに日本および中南米諸国とのかけ橋となって活躍されることと確信するものである。

最後に，移住者子弟技術研修制度に深い理解を示され，研修生を温かくご指導くださった関係機関の皆様に改めて感謝の意を表する次第である。

1989年9月

国際協力事業団
移住事業部長

目　　次

まえがき

研修総括報告書（１８ケ月コース）

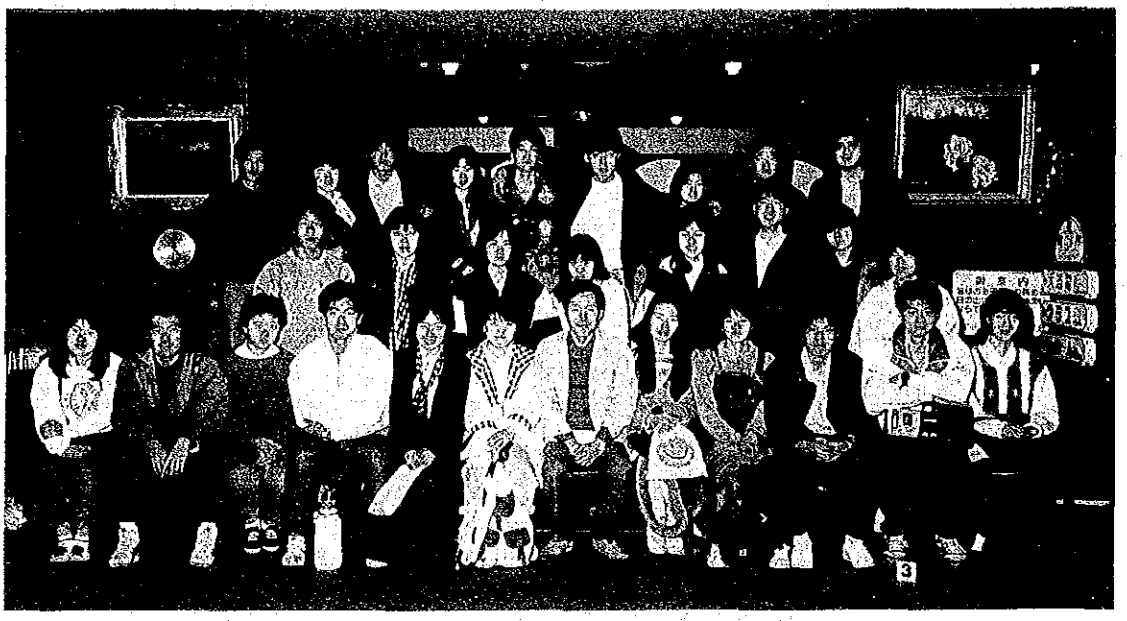
1. 小林慎一　（ブラジル　カスタニャール）……1
2. 林豊カルロス　（〃　ベレーン）……4
3. 相根真弓　（〃　ベレーン）……6
4. 松井エミリア美子　（〃　ノーバ・ビソーザ）……8
5. 脇坂浩次　（〃　フンシャール）……10
6. 芳賀和恵　（〃　モジ・ダス・クルーゼス）……12
7. 寺田アンネ（阿奴）　（〃　スザノ）……15
8. 玉田剛エジソン　（〃　アルジャー）……22
9. 矢野美和　（〃　イボチ）……24
10. 砂田直美　（〃　桜・高森）……27
11. 山本洗心エジソン　（〃　ピリチーバ・ミリン）……29
12. 石東公平エリオ　（〃　サンタナ・ド・イタラレ）……31
13. 金野敏雄エジソン　（〃　レジントロ）……31
14. 小林栄美　（〃　サン・ミゲール・アルカンジョ）……33
15. 後藤鶴代　（〃　アサイ）……36
16. 松永旭　（パラグァイ　フラム）……38
17. 藤田和子　（〃　イグアス）……41
18. 大原智江　（〃　アルト・パラナ）……43
19. 山脇厚二　（〃　イグアス）……59
20. 高橋家久　（アルゼンティン　ラ・プラタ）……61
21. 米アナエリサ　（〃　メンドーサ）……62
22. 山内智子　（ボリヴィア　オキナワ第1）……64
23. 米倉輝　（〃　サン・ファン）……66
24. 当山満ニコラス　（〃　オキナワ第2）……68
25. 山城千景　（〃　オキナワ第2）……70
26. 加藤忠　（〃　サン・ファン）……74
27. 仲松エレナ　（ペルー　リマ）……75
28. 佐藤康樹　（ドミニカ共和国　コンスタンサ）……78
29. 後藤政昭マルセーロ　（ウルグァイ　モンテヴィデオ）……80

30. 西 村 ル ミ　（ヴェネズエラ カラカス　）…… 83

研修総括報告書（２４ケ月コース）

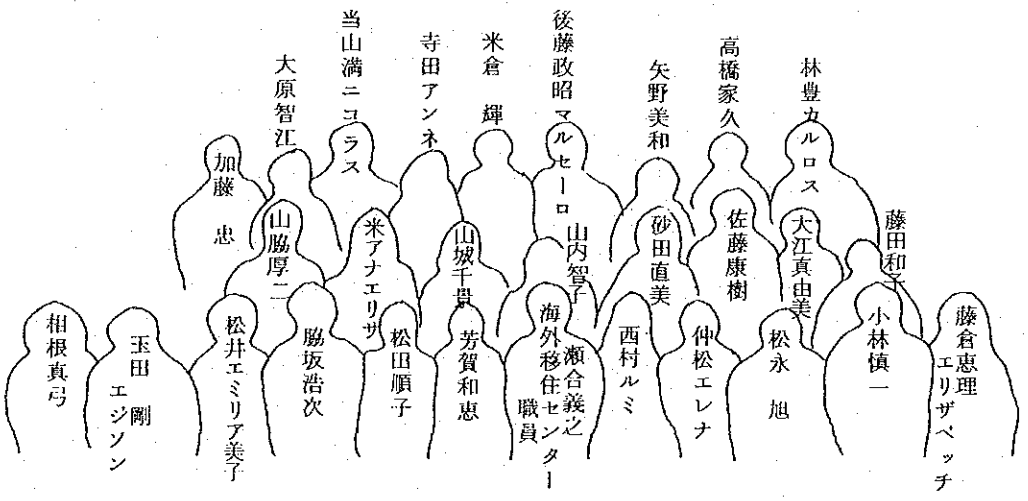
31. 松 田 順 子　（ブ ラ ジ ル マナオス　）…… 87
32. 藤倉恵理エリザベッチ（　〃　ス ザ ノ　）…… 90
33. 大 江 真由美　（パ ラ グ ァ イ アマンバイ　）…… 92

第１７回子弟研修生住所録 …… 95
子弟研修生一覧表 …… 104



研　修　旅　行

（1988年3月30日　伊豆のホテル）



研修総括報告書（18ケ月コース）

小林慎一	松永旭
林豊カルロス	藤田和子
相根真弓	大原智江
松井エミリア美子	山脇厚二
脇坂浩次	高橋家久
芳賀和恵	米アナエリサ
寺田アンネ（阿奴）	山内智子
玉田剛エジソン	米倉輝
矢野美和	当山満ニコラス
砂田直美	山城千景
山本洗心エジソン	加藤忠
石東公平エリオ	仲松エレナ
金野敏雄エジソン	佐藤康樹
小林栄美	後藤政昭マルセーロ
後藤鶴代	西村ルミ

小　林　慎　一

1. 研修機関　(1) 前期　福岡県農業総合試験場（畜産研究所）
　　昭和 62 年 5 月～昭和 63 年 3 月
　　(2) 後期　福岡県宗像郡大島村村営牧場
　　昭和 63 年 4 月～9 月
2. 研修期間　昭和 62 年 4 月～昭和 63 年 9 月
3. 研修職種　畜産（肉牛，乳牛，繁殖牛）

4. 当初の研修計画

この研修制度に参加したのは，日本で肉牛，繁殖牛，人工授精の技術を学ぶのが一番の目的でした。

5. 研修概要

62年5月～63年3月まで福岡県農業総合試験場内「畜産研究所」で肉用牛の繁殖肥育技術について研修しました。

1. 経産牛の肥育技術。（乾乳肥育と搾乳肥育）
2. 乳用種肥育実態調査。
3. 乳用種の繁殖技術。
4. 肉専用種の繁殖技術。
5. 交雑種の繁殖技術。
6. 交雑種肉用牛の肥育実態調査。
7. 交雑種肉用牛の哺育・育成実態調査。
8. 肉専用種肥育牛の実態調査。
9. 肉質判定技術。
10. と殺場の実態調査。
11. 牛枝肉の取引実態調査。
12. 牛枝肉の部分肉流通実態調査。
13. 乳肉複合経営の実態調査。
14. 搾乳技術。
15. 牛乳品質検査。
16. 乳房炎の検査法。
17. 血液検査。
18. 各種粗飼料の品質判定。
19. 自家配合飼料の配合設計及び給与技術。
20. 助産技術。

21. 枝肉の審査法。

22. 去勢法。

23. 除角法。

24. 削蹄技術。

25. 体側法。

26. 生体の審査法。

27. 人工授精技術。

28. 牛精液の取引実態調査。

29. 牛の受精卵移植技術。

30. 発情鑑定技術。

31. 牛の共進会視察。

32. 繁殖肥育技術講習会の受講。

33. バイオテクノロジー講習会の受講。

34. 自給飼料生産利用講習会の受講。

35. 繁殖肥育流通一貫経営の実態調査。（広島県）

36. 九重・阿蘇地方における，大規模型経営の視察。（熊本県）

37. 家畜市場における取引実態視察。

38. 大分県畜産試験場視察。

39. 離島における繁殖肥育経営の実態調査。

40. 交雑種肉用牛の肥育実態調査。

41. 牛舎構造・施設配置の考え方。

42. ふん尿処理技術。

63年4月～9月まで大島村村営牧場で実習生として毎日作業をしながら，又飼料を変えたりして牛の太り具合を見て来ました。

研究所で学んだ事と現地での実習では地形の問題もあって，随分違いました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の研修計画以上に日本の進んだ技術を学べば学ぶほど農地・飼育法及び経済的な違いがあまりにも大きく，どうすれば少しでも日本での研修が生かせるのか期待と不安とでいっぱいです。

7. 合同研修会について

私にとって6ケ月に1回の合同研修会は日本での楽しみの一つでした。でも，昨年の9月は，予算の関係で実行されなかったのが残念でした。色々な研修生に会いそれぞれの意見交換をしたり研修先での体験などを聞き，次の研修への大きな支えになる大事な研修でもあります。

他国の研修生と交流を深める事が出来たのも，この合同研修のおかげだと思います。

これから先もずっと続けて行って下さい。

8. 本邦での生活状況

最初横浜の移住センターで40日間日本語の講習を受け，前期研修は福岡県農業総合試験場の寮で生活をしました。

食事の方は問題ありませんでしたが，言葉の方は2～3ケ月間不自由しました。でも寮生ともすぐ友達になり，バドミントンクラブにも入り毎日楽しい日を過ごしました。後半は大島村村営牧場で研修を受けることになり，離島での生活が始まり淋しい毎日が続くかと思っていたが，まわりが良い人達ばかりでしたので，楽しい毎日でした。好きなバドミントンも（週2回）続けられ，6ケ月間があっという間に過ぎてしまいました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

日本に来る前に出来るだけ日本語を学び目的をはっきりする事で，研修の成果が上がると思います。

本が読めれば，色々な情報が得られるし，自分が希望している事が自ら学んでいけます。本当に日本語が読めるということは良いことです。

これから来る研修生頑張って下さい。

10. 所　感

62年4月私は国際協力事業団第17回移住者子弟技術研修生として日本の進んでいる肉牛の勉強をしに来ました。

家では放牧しながら太らせるので，出荷まで4年間もかかります。

日本の進んだ技術を学び南米に帰ったら少しでも経費を安くし早く出荷出来るように努力して行きたいと考えています。

長いようで短かった1年半が過ぎ去ろうとしている今，日本の生活にも慣れ，なごりおしい気持ちです。

最後になりましたが，日本で無事研修を終えることが出来たのも国際協力事業団九州支部の皆さん及び海外移住センターの方々のおかげです。

又，このような機会を与えて下さった皆様に心からお礼を申し上げます。

林　豊　カルロス

1. 研修機関　(1) 前期　昭和62年5月13日～63年3月31日
東芝首都圏サービス㈱中央ＳＳ（上野）
川崎東芝トレーニングセンター
東芝大津研修センター
(2) 後期　昭和63年4月1日～9月16日
東芝首都圏サービス㈱大森ハイテックセンター
東芝首都圏サービス㈱アンテナ機器

2. 研修期間　昭和62年4月～63年9月

3. 研修職種　弱電修理

4. 当初の研修計画

私の国ブラジルでは，電子技術関係，中でもデジタル関係では，5年から10年程度遅れており，最近になってから一般家庭でパソコン，ワープロ等が普及してきました。

こういった機器等が普及すると，使うには問題はないが，故障した時には色々と遅れた技術問題が出てきます。

そういった遅れをなるべく無くそうというために，私は，国際協力事業団第17回生移住者子弟技術研修生として，一般弱電修理技術者，主にパソコン，ワープロ等の研修を受けるために日本へやってきました。

5. 研修概要

前期研修では昭和62年5月13日から昭和63年3月までは上野東芝首都圏中央ＳＳで研修を受けるほか，川崎東芝トレーニングセンターで同じ期間に毎週火曜日と木曜日夜6時から8時までの研修を受けました。その他，昭和63年2月に2週間ほど大津の東芝研修センターでＡＶ技術コースを受けました。後期研修では，大森東芝首都圏ハイテックセンターで残り昭和63年4月～9月までの研修を受けました。

(1) 上野東芝首都圏中央ＳＳ（昭和62年5月～昭和63年3月）

内容：1. 家電製品（エアコン，給湯器，洗濯機，乾燥機，電子レンジ，冷蔵庫）
2. 音響製品（ステレオ，カセットデッキ，ウオーキー，ラジカセ，カラオケセット，アンプ，チューナー）
3. ＡＶ製品（テレビ，ビデオ）
4. デジタル製品（ワープロ，パソコン，文字多重）
5. 通信製品（電話，コードレステレフォン，コードレスインターホン）

(2) 川崎東芝トレーニングセンター（昭和62年5月～昭和63年3月）

内容：毎週火曜日（デジタル回路マイコン）

1. 論理演算に関する回路（AND，NAND，OR，NOR，NOT，EX-OR，EX-NOR，FLIP-FLOP）
2. パソコンに関する回路（CPU，ROM-MEMORY，RAM-MEMORY，IN/OUT-INTERFACE）
3. プログラム（マシン語，アセンブリ言語）

毎週木曜日（パソコン）

1. MS－DOS
2. 漢字マルチプラン
3. データベース
4. T－BASIC

(3) 東芝大津研修センター（昭和63年2月1日～12日）

AV技術コース（テレビ，ビデオカメラ等の技術コース）

(4) 大森東芝首都圏ーハイテック・センター（昭和63年4月～昭和63年9月）

1. AV製品（ビデオ，ビデオカメラ）
2. 通信製品（BSチューナー，コードレステレフォン）
3. デジタル製品（パソコン，ワープロ）

(5) 大森東芝首都圏　アンテナ機器（昭和63年9月4日～14日）

1. アンテナ
2. ゴースト対策アンテナ
3. ブースター
4. フィルター

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私はある程度の技術を持っていたために，これだけの内容をマスターするのは問題ではありませんでした。

それでも，日本の技術は相当進んでおり，全部の内容をマスターするというのは，数年の勉強と実習を必要とするので，せめて国に帰っても通じる範囲は精一杯やりました。

7. 合同研修会について

残念ながら私達17回生には，日本に到着以来半年後の合同研修がありませんでした。半年とは，ちょうど私達が日本の状況になれ始めた時期で，特に経験者のアドバイスが必要な時期でありました。

1年後の合同研修は，特に同期の研修生達と話合う大切な機会でありました。おかげで，もっと友情を深めることができ，それと同様に，後輩達とも話し合うことができ，大変嬉しく感じました。

ぜひ今後とも，合同研修を続けて欲しいと思います。

8. 本邦での生活状況

私は横浜海外移住センターで1年半を過ごしました。最初は団体生活に慣れていなくて，すごく不安を感じましたが，慣れてみるとまるで新しい大きな家族の中にいるようで，とても良い生活を送ってきました。

研修先でも，皆とてもあたたかく，良い人達ばかりでした。

最後に，国際協力事業団の皆様，研修先の皆様，センターでの先生方，日本での1年半の素晴しい体験を与えて下さって，心からお礼を申し上げます。本当に有難うございました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

研修期間がとても短いので，出来るだけ学び，体験をして，後悔が残らないように頑張って欲しい。

10. 所　感

日本での1年半，あっという間に過ぎてしまい，とても短く感じました。それでも日本での研修はとても良かったと思います。この進歩した国で研修させてもらうことは，私達南米日系二世にとっては，とても素晴らしいことだと実感させられました。

ここで学んだことをブラジルで役に立てるよう頑張りたいと思っています。最後に，ブラジルを立つ前にお世話になった元子弟研修生，リオの小松滋さん，そして山口哲君に深く感謝しています。その他，日本での素晴しい仲間達，子弟研修生第16回生，第18回生，62年度のBコース，63年度のBコース，移住研修生第51期生，62年度開発青年達，海外移住センターの職員達に深く心の中から感謝しています。本当に長い間お世話になりました。

相　根　真　弓

1. 研修機関　(1) 前期　富山県立保育専門学院
　　(2) 後期　同　上
2. 研修期間　昭和62年4月～昭和63年9月
3. 研修職種　幼児教育（保母）

4. 当初の研修計画

日本のすぐれた教育を学び，幼児教育に関する知識と認識を深め，それらをブラジルの人達に伝えること。

5. 研修概要

1年半を通して富山県立保育専門学院で研修させていただきました。

基礎理論として：教育，保育，養護の原理をはじめ，乳児，児童，教育の心理学，小児保健や栄養

保育内容として：6領域（健康，社会，音楽リズム，自然，言語，絵画製作）の内容についてその

他に乳児保育や児童文化など…。

基礎技能として：音楽，ピアノ実技と理論，図画工作，幼児体育。

当学院のふぞく保育所，又他の保育園や施設での宿泊学習も行ないました。これらの実習では乳幼児とのかかわり方，接し方を実際に体験し，又は指導技術を習得しながら幼児の各発達段階を見る事が出来ました。施設での実習は，理論では理解出来なかった事を体験的に習得することができました。この教育実習によって子供を理解すること，何が子供達に必要であるか，どうすれば子供達のもっている才能をのばしてあげられるかなどのさまざまな事を教えられました。又，幼児教育の重要性を強く感じさせられました。

これまで学んだ事を，ブラジルで役立てるよう努力したいです。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初は幼児教育の勉強をしてみたいという事で内容は漠然としていました。又，私自身初めて幼児教育を学ぶということで，予想以上の事を学ぶことが出来ました。そして，当学院は保育専門学院であったために保育の内容をより具体的にとらえることができました。

7. 合同研修会について

半年に１度の合同研修会は，全員に会えるということだけではなく，おたがいの研修先での体験や悩みを話し合うのに良いチャンスだと思います。そして，次の研修への大きな力となりますので，ぜひ続けていただきたいです。

8. 本邦での生活状況

学院の近くにあるアパートで１年半１人ぐらしをいたしました。自炊をしていましたが環境的にも恵まれていたので，何一つ不自由なく勉学に励むことができました。学院の先生方，学生のみなさん，そして大家さんには大変お世話になりました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

要望としては，日本へ来る前に日本語をあるていどマスターしておく必要があると思います。又，ＪＩＣＡから研修内容を知らせていただければ研修生自身も研修計画をもつことができると思います。

10. 所　　感

小さい頃から日本で勉強することは私の夢でした。しかし，来日するその日まで研修することに対して単なる甘い考えでいましたが，現実の研修はそうなまやさしいものではありませんでした。生活する上での言葉の不自由を感じることはありませんでしたが，何かと授業を受ける上では内容を把握できず，不安を感じることがありました。でも先生方や友達（学生）の皆さんが色々と親切に指導して下さったので無事に１年半の研修をおえることができました。この研修期間を振り返ってみますとさまざまなことが思い浮かびます。友人との出会い，別れ，そして勉強，すべて私にとっては一生忘れることの出来ない良い思い出となりました。

この機会を与えて下さったＪＩＣＡの皆さん，学院の諸先生方，学生の皆さんに心より感謝してお

ります。本当にありがとうございました。

帰国後，日本で学んだことを出来るだけ多くの人に伝え，役立てるよう努力をしたいと願っております。

松井エミリア美子

1. 研修機関　(1) 前期　S.62.5.13 ～ S.62.9.30
（有限会社阿蘇ファーム）
(2) 前期 後期 } S.62.10.1 ～ S. 63.9.19
（熊本県立農業大学校附属畜産高等研修所）

2. 研修期間　昭和62年4月～昭和63年9月

3. 研修職種　畜産

4. 当初の研修計画

(1) 肥　育　日本のぎじゅつ，エサの与えかた／エサのつくりかた

(2) 日本の畜産　牛の種類，農家でのやりかた

(3) 人工授精　繁殖，種付けのぎじゅつ

5. 研修概要

最初の研修先　有限会社阿蘇ファーム

肉牛の肥育管理（12カ月肥育）

かん国牛：400頭
ホルスタイン♂牛：800頭
オーストラリア牛（まりーぐれい）：200頭
肥後赤牛：200頭
} 計1,600頭

肉豚（母豚400頭の一環経営－4000頭飼育）

ここでは肥育牛の世話などのやりかた，配合飼料の原材料について，日本とブラジルの畜産を比較しながら勉強しました。たったの4カ月間でしたが，何もできなかった私が牛と仕事に慣れるためにはとてもいい期間でした。10月に研修先が変わることになり，私は畜産高等研修所へ来ました。

研　修　所　乳牛頭数　100頭
肉牛頭数　200頭
草　地　300ha

こちらでは熊本県畜産試験場阿蘇支場と農業大学校附属畜産高等研修所が一緒にあり研修生と（前半14名 後半9名）共にこうぎ（11時～3時）と実習（9時～11時・3時～5時）を行ないました。こうぎは研修所の先生，試験場の先生，それに外来の先生が来られ，繁殖生理，種付け理論，

生殖器解剖，飼料計算，育種，乳牛の飼養，肉牛の飼養など34科目有りましたが専門用語や日本の漢字がむずかしくて理解出来ませんでした。実習ではサイレージづめや乾草の収納，鼻かん通し，肉牛や乳牛の人工授精，哺育牛，育成牛の世話や治療などの練習をしました。削蹄や除角，去せいなどは力仕事でできませんでした。この他かに熊本市の畜産施設，ゆうしゅうな畜産農家の見学，宿泊研修，試験場，協同組合など色々見てまわりました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

見ると，計画していたことの経験はほとんどできましたが，ただ技術（種付け，人工授精）てきには思いどおりにできませんでした。初めて勉強するので理解できるのにとても時間がかかりました。やっと分かって来た時に研修期間が終りとなって来ました。でも色々な経験ができましてうれしく思っております。ブラジルで頑張ります。

7. 合同研修会について

私たち17回生は9月に行なわれる合同研修会が有りませんでしたのでとても残念でした。

色々な問題点が有った場合にはどういう方法で越えたらいいかわからない時も有ります。その時にこの合同研修会で色々同じ思いをした人たちの話，オリエンテーション，アドバイス，そうだんにのってくれる人がとても必要だと思います。

4月に行なわれた合同研修会では18回生の皆様にアドバイスができ，仲間たちとの出会いはとても良かったです。半年ぶりに又皆様と会うのを楽しみにしております。

8. 本邦での生活状況

私は畜産をえらんだので阿蘇のいなかで研修を受けることになりました。とても景色のすばらしい所ですが，まわりを見ると何もない，さびしい所です。私の仲間たちは皆男子でとてもやさしい人たちで良く私のことを大事にしてくれました。仕事をしている間が一番楽しい時でしたが，夜が来るととてもさびしかったです。いつも長い夜を一人ぼっちですごして来ました。皆親切でしたけれど自分の気持とか色々ななやみを真剣に話すことはできませんでした。女子一人でしたので先生たちがとてもきびしかったです。このさびしさをたえることができたのは，熊本市内にいる研修生たちと研修所の先生たちのおかげでした。楽しい時も有り，旅行も沢山できてとてもうれしかったです。研修はとても良かったですが，ただ人間関係が少し残念だったと思っております。全部この短かい人生でのいい勉強として，思い出としてブラジルへ帰っても忘れません。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

(1) もし女子研修生でしたらもっと信用して，その人の気持を勉強して理解してあげてほしいです。

(2) 同じ研修目的で来ている人なら一つの研修先で，複数の人数で研修を受けさせてあげてほしいです。

(3) 研修も大切なことだけど自由な時間とか社会勉強も大切だと思います。

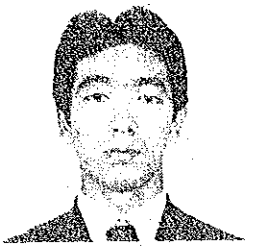
10. 所　感

私はこの1年半ずっと牛の世話などをやって来ました。哺育，育成，繁殖牛のことについて色々学びました。この中で一番興味を持ったのは哺育です。哺育牛に初乳を飲ませたり，治療などをしたり，エサを与えたりする時がとても楽しかったです。

将来私は獣医になりたいです。ブラジルへ帰ってから大学校へ行って，勉強をしっかりして日本で学んだことを生かして頑張りたいと思います。

国際協力事業団の皆様，畜産高等研修所の皆様，長い可大変お世話になり，心から感謝いたします。

脇　坂　浩　次



1. 研修機関　(1) 前期　福岡県農業総合試験場
　　(2) 後期　福岡県田川郡添田町（農家実習）
2. 研修期間　昭和62年4月～昭和63年9月
3. 研修職種　蔬菜（農業技術）

4. 当初の研修計画

私は，キュウリ，トマト，ピーマン等の野菜を栽培しています。

僕の目的は，日本の進んだ農業技術を身につけることです。

5. 研修概要

"前期"

昭和62年5月～昭和63年3月末まで約11ヶ月間福岡県農業総合試験場の野菜品種研究室と野菜栽培研究室で研修を行いました。

－野菜品種研究室では，中国野菜，キュウリ，イチゴ，トウモロコシ，メロン，ミョウガ等の品種試験と新品種の食味調査もしました。

－野菜栽培研究室の露地野菜はレタス，ホウレンソウ，キャベツ，ダイコン。施設野菜はカブ，ホウレンソウ，メロン，ナス，葉ネギ，トマト，ミニトマト，キュウリ，軟弱野菜等の沢山の野菜について実際に栽培しながら学ぶことが出来ました。

これらの野菜の中で最も勉強したかったのは，キュウリ栽培技術で，これについては試験場で8月と1月に種子を蒔くことが出来ました。特に接ぎ木では色々な方法を学ぶことが出来ました。例えばカボチャを台木にして呼び接ぎ，挿し接ぎ，断根挿し接ぎ，ブロペラ挿し接ぎを実際にすることが出来ました。接ぎ木をしてから後の管理が忙しかったのが印象に残っています。晴れた日は10分おきで温度管理に注意を払い，キュウリの葉が萎えると，葉水をやったり，温度を下げるためにハウスの天窓を開けたり閉めたりと1日中ハウスの中でキュウリの管理をするなど大変勉強になりました。

その他，キャベツの分解調査，キュウリ，葉ネギ，培液の分析，キュウリの品質調査，トマトとナスの開花ラベル付けとホルモン処理，トマト，ミニトマト，メロンのBRIX測定，収穫調査，畑地の暗渠設置，土壌消毒，床土作り，稲堆肥切り返し，畝立て，定植，薬剤散布，灌水などの作業を行いました。又，園芸研究所の先生にキュウリの現地調査や視察に連れていってもらいました。色々な所へ行ったり，色々なやり方を見たり，色々なキュウリと台木の品種を見て良い勉強になりました。

"後期"

昭和63年4月～昭和63年9まで福岡県田川郡添田町で木村様の農場で農家実習でした。農家でキュウリ，トマト，ナス，イチゴ，稲を有機栽培していました。

研修期間中で学んだ農業技術は大変勉強になったと思います。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

研修計画は農業技術を身につけることでした。

思ってい以上に新品種や技術を学ぶことが出来ました。

7. 合同研修会について

9月の合同研修会が無かったのが残念だったと思います。

1年ぶり，17回生達全員と会うのが楽しみでした。お互いに研修中の苦しいことや日本での生活状況などの話を聞いたり，アドバイスしたり楽しい合同研修会でした。又，夜のパーティー，楽しい旅行で南米の友達関係が強くなったと思います。

8. 本邦での生活状況

前期研修は福岡県農業大学校の寮にお世話になりました。ブラジル研修生の小林君と同じ部屋で，時々言い合いもあり，楽しい良い思い出も残ったと思います。学生達と友達になって毎晩僕達の部屋で集まっていました。

寮の規則，朝の7：30hsと夜の10：00hsに廊下に出て点呼をとっていました。夜の10：00hsが門限，消灯時間が夜の11：00hs。冬の寒い間の暖房は夕方の6:00hsから夜の9:00hsで消されました。でも良い思い出に残ったと思います。後期は農家実習でした。農家の人達と一緒に生活をしました。家族の一員として親切にしてくれました。日本の農家生活を実際に体験することが出来ました。

休みの日は友達と旅行をしたり，サッカーの試合に行ったり。でももっとも楽しかったのは，僕達の留学生クラブ（WE ARE THE CLUB）の集まりでした。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

目的をはっきりして，日本語の会話，読み書きを勉強して来た方が良いと思います。

日本の生活に必要な生活習慣や生活様式について，海外移住センターで研修生全員が研修を受けた方が良いと思います。

10. 所　感

私は国際協力事業団の援助により第17回研修生として日本の進んだ農業技術を学ぶために日本へ来ることが出来ました。日本に着いた時は春の盛りで桜の花が満開だったのが今でも印象残っています。日本で学んだ農業技術をブラジルで役立つように生かして行きたいと思っています。

日本で出来た友達，留学生達，同じブラジルの研修生達の皆様に又，いつか会えるでしょう。皆様達から親切に教えてもらったことは絶対に忘れられない。そして最後になりましたが，長い間お世話になりました福岡県農業総合試験場，木村様の農家，国際協力事業団の皆様に心から感謝申し上げます。

どうもありがとうございました。

MUITO OBRIGADO

芳　賀　和　恵

1. 研修機関　(1) 前期　㈱高木ナーセリー
千葉県千葉市園生町510
(2) 後期　㈱大十園
愛知県豊橋市南大清水町字元町61－2
㈱河野メリクロン
徳島県美馬郡脇町大字北庄562－1

2. 研修期間　62年4月～63年9月

3. 研修職種　花き園芸，ラン科植物の組織培養と栽培

4. 当初の研修計画

シンビジューム，カトレアの組織培養（初代培養，増殖，移植）及び，順化，管理。

フラスコ苗出し，順化，栽培環境

苗から開花までの栽培及び管理

開花株の出荷，市場での扱い，フラワーショップでの扱い

日本での花の使い方，及び需要性

5. 研修概要

・㈱高木ナーセリー

洋ラン，主にシンビジューム，カトレア，ミルトニア，オンシジウムのメリクロン苗，ファレノプシスの実生苗の生産を行なっています。

初めの2週間は，苔まき室でフラスコに植わっている苗を出し，これを水苔で巻く作業を行ないました。

ランの種類によって水苔で巻く硬さがちがってきます。シンビジュームは，やわらかく，カトレアは硬く，その他は，その中間の硬さに巻く。1本1本丁寧に巻き，1鉢30本とする。この鉢はC.P.（community pot）として扱われています。

それ以降は，培養室で研修を行ないました。準備室で無菌室に分かれていまして，その他にフラスコ室があります。1カ月交代で準備室と無菌室で作業を行ないました。

準備室では，培地作り，器具のセット，器具とフラスコの洗浄。

無菌室では，クリンベンチに向かって，シンビジューム，カトレア，ミルトニアなどの増殖，移殖をやりました。

その他に，従業員が出社するまでに下準備をやりました。クリンベンチでの作業を行なうための器具類（シャーレ，ピンセット，メス）の消毒，セット。アルコール，仕事の段取りをやりました。

フラスコ室の温度管理。25℃の一定の温度になるべく保つようにする。苗出しができるフラスコの移動。

シンビジューム，カトレアの開花時期には，生産者視察，または，他会社の培養室見学。

毎日同じ作業の繰り返しでしたが，その中でも扱う苗の品種がちがいましたし，1日1日確実にその苗のポイントをつかめるようになり，自分の物になっているのを感じました。

・㈲大十園

観葉植物（スパッチフィラム，アンスリューム），メリクロン苗，鉢物生産。

国内では，観葉植物の生産は，もっとも多く，大規模で，研修生も11名います。研修生に指導していただきながら研修を進めてきました。

普通の土での栽培と，ハイドロボールを植えこみ材料として，水こう栽培を行なっています。私は，主に鉢上げ，置肥を1鉢づつ入れる作業，病気がかった葉また株を取る，出荷の手伝い。

鉢上げは，ハイドロボールを材料としていますので早く，清潔感がでます。

Hydro Culture なので，水に植物の必要な養分が混入され，適度な光線を与え栽培します。定期的に薬散を行なっていました。

午前8時から午後7時までの仕事時間，その他，週2，3回残業が行なわれ，9時～10時までやりました。主に出荷が多く，傷付いた花取り，汚い葉を取ったりまたは，ふき。輪数別に分け，包装，箱づめ，ラベル入れ。

2週間程，培養室で研修しました。準備室で培地作り，試験管洗い。無菌室で，アンスリューム，スパッチフィラムの初代培養，他の観葉植物の継代培養，移植をやりました。

・㈱河野メリクロン

シンビジュームの苗の生産を行なっていまして，日本国内では，70％のシェアを持つ企業です。

初めに，フラスコから苗を出し，水苔で巻く作業をやりました。20本の苗を1鉢に植える作業。

Community Pot。

培養室でシンビジュームのプロトコームのカッチング。100ccフラスコ移植。

調合室で培地作り。500ccフラスコ，毎日1400～1800本，100ccフラスコ500本。その他，こちらではゴム栓に綿詰め，シャーレ包み，器具の洗浄。

農場で，C.P.から3寸ポットへ鉢上げ。3寸から4.5寸ポットへ，4.5寸から6寸への鉢上げ作業。シュートの芽かき（シンビジュームは，横芽が多く出るので，また作りをコンパクトに）

置肥（骨粉，油かす，ハイポネックスが混合されている）を1鉢1鉢に少々配る作業。冠水など主な作業でした。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

比較的，自分が一番勉強したいテーマは出できました。

洋ランばかりでなく，観葉植物も見ることができ大変勉強になりました。

もう少し，開花株までの栽培が，深くみられなく残念に思っています。

市場，フラワーショップなどを視察する機会が少なく，日本人の花の使い方，これからの市場の展開，アレンジ等の流行の流れなど今一つ確かにつかめなく，心ぼそいです。

7. 合同研修会について

9月に16回生と合同研修会がなかったことを残念に思っています。私たちがようやく日本の生活にとけこんで来ている時期，悩みも多く，祖国が非常に恋しい時だと思います。合同研修が有りましたら，同じ仲間に会えるばかりでなく，お互いをはげまし合い，体験を語り合い，輪を固め，より早く日本人の心が理解できたのではないでしょうか。

合同研修会の内容については，私は，余りにも時間の余裕が有りすぎたのでは，と思います。時間をもう少し有効に使えたら良かったと思います。

18回生たちとも短い期間でしたが顔見知りになることができ，または，16回生にも日本のあらゆる面を語って頂き，自分の見た日本，体験で得た生活習慣，人間関係，研修の進め方などを語り合うことができ，自分の研修を進めるのに大きな励みになりました。

8. 本邦での生活状況

千葉県では，福岡県から来ていました研修生とアパートで共同生活を送りました。食事は，会社のほうで食べることになっていました。

会社は，午前7時に出社し，午後6時までの間でした。

食事は，全く問題なく，同年齢の研修生が3人いましたので，日本の生活にとけこむことができました。

愛知県では，寮生活でした。男子11名と共に，食事をしました。皆さんとても暖かく迎えて下さり，自分の研修に夢中になっている人たちばかりで，私の研修がスムーズに運べるよう助けて頂きました。研修の方は，午前8時から午後7時まで，その他に週2，3回残業があり，9，10時までやり

ました。

徳島県は，従業員のうちに下宿することになり，一番大変でした。食生活，生活習慣が大きく異なり，また言葉にも悩まされました。研修の方は，あまり問題なく，ひととおりみることができました。

私としては，ひととおり体験できましたので，これほど良い勉強はなかったとおもいます。

地方の人の生活，都会の人の生活が体験でき，より日本人に近寄れたのではないかと思っています。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

各支部によって違うかも知れませんが，支部とのコンタクトをとりやすいようにして欲しいものです。私たちの心の助けとなるのは，事業団しかありませんので私たちと日本の交流を深めるためにも，もう少し支部とのコムニケーションをはかれるようにして欲しいのです。

10. 所　感

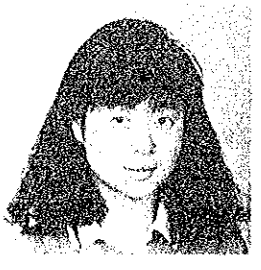
日本での1年半の研修期間は，自分が選択した種目ばかりの研修でなく違った社会での生活，社会人としてどこまで独りでやっていけるかが勝負でした。

国民の一人あたりのG.N.P. が1万ドルとなった経済大国日本の生活環境，新人類と言われている同年齢の若者たちの考え，物の選び方，社会の役目をみることができ，キャッチすることができるようになり，これからの社会は，30年代の方たちが支えていくんだと感じました。

日本での研修を活かして，ブラジルに花き園芸をもっと普及させたいと思っています。農業だけですませるのでなく企業化させ，国内生産ばかりでなく，海外輸出を目指して，国の発展，町の発展に結びつけたいです。

ブラジルの若い人に国際的交流をはかれるよう，花を通じて，より多くの人が幸福に暮らせるようにこれから力を尽くして生きたい，そしてこれがかなうよう努力して行くつもりです。

日本の進んだ技術ばかりでなく，経済的歩みを少しばかり理解することができ，ブラジルのこれからの発展を目指して少しでも役に立てることができたら幸いに思っています。



寺　田　阿　奴

1. 研修機関　(1) 前期　東海大学医学部付属大磯病院
　　(2) 後期　国立病院医療センター

2. 研修期間

合同研修	62. 4. 3 ～ 62. 5. 12
東海大学	62. 5. 13 ～ 62. 12. 20
国立病院医療センター	62. 12. 21. ～ 63. 9. 25

3. 希望研修内容

東洋医学（鍼灸，マッサージ），　カイロプラクティク，　リハビリテーション，　美容科

4. 研修概要

(1) 東海大学医学部付属大磯病院　東洋医学科（62. 5. 13 ～ 12. 20 ）

（由下九三夫，秋山茂明先生　指導）

良導絡療法，日本鍼灸，中医学療法，リハビリ見学

1. 七沢リハビリテーション病院，脳血管センター（62. 10. 13 ～ 62. 11. 14 月～木）

（丹沢章八先生　指導）

2. 東海大学付属伊勢原病院（62. 10. 23 ～ 62. 11. 14 金，土）

（村上先生　指導）

リハビリ見学と実習

3. 小田原衛生学園（62. 7. 21 ～ 8. 1 ）

（兵藤明先生　指導）

中医鍼灸学講座　スポーツ外傷（テーピング）

4. 船堀クリニック今井病院（62. 8. 21 ）

カイロプラクティクと鍼灸見学

5. 札幌良導絡研究所と中根良導絡研究所（62. 9. 21 ～ 22 ）

（中根敏得先生　指導）

良導絡療法

(2) 国立病院医療センター（62. 12. 23 ～ 63. 9. 25 ）

（由下九三夫，与五沢利夫先生　指導）

東洋医学とペインクリニック

1. 竹之内治療医院（62. 12. 24 ～ 63. 4. 13 火，木，土）

（竹之内診佐先生　指導）

脈診療法と鍼灸見学

2. 塩川治療室（63. 4. 14 ～ 7. 15 火，土）

（塩川満章先生　指導）

カイロプラクティク

3. 筑波大学理療科教員養成施設（63. 4. 14 ～ 7. 15 木，金）

（西條一止先生　指導）

東洋医学の基本と臨床

4. 国立身体障害リハビリテーションセンター（62. 6. 23 ）

リハビリと東洋医学見学

5. エバ，漢方美容研修室（63. 7. 15 ～ 9. 25 火，木）

（山本澄子先生　指導）

エステック

6. 第38回全日本鍼灸学会にスタッフとして参加（63. 6. 3 ～ 5 ）

5. 研修成果

東洋医学については，1.東洋医学入門，2.鍼灸経穴辞典，3.臨床経穴図，等の本をもとに秋山先生により教えてもらいました。しかし日本にきたばかりで日本語があまり読めずに苦労しましたが，先生は親切に細かく教えて下さり，東洋医学の考え方について学べたと思いました。

良導絡療法については，良導絡療法（中谷義雄，山下九三夫著），良導絡自律神経調整療法（中谷義雄著）により，良導絡の機械の使用法，良導絡理論について学びました。良導絡療法について，実際の患者の治療を山下先生について実習してその利点がわかりました。

脈診療法について，脈診療法（竹之内先生），東洋医学大辞典（間中義雄著），を読み，実際に治療法を竹之内先生の診療所で見学させてもらいました。

七沢病院では東洋医学科の見学をさせてもらい，中医学と日本鍼灸療法とを混合した治療法を見せてもらいました。灸療法は中国式であり，患者さん達には気に入られていたようですが，煙が多くでるので，特別に作られた施設が必要であることが分りました。ここではサーモグラフィーやポリオグラフィーの研究も行われており，サーモグラフィーがどのようなものかよくわかりました。また日本でのリハビリテーションの実際に接して，日本のリハビリテーションが医師，看護婦，PT，ST，OTなどのチームワークで行われているのがわかりました。例えば，1週間に1回，これらのチームにより患者の治療法についてのカンファレンスが行われ，患者の治療にたずさわる人々が患者の状態について皆よく理解していました。

七沢病院では脳梗塞とリューマチ等慢性的な患者が多く，治療の長引く人が主でした。この病院で，日本ではリハビリテーションと西洋医学，東洋医学がどのように扱われているのかがよくわかりました。

国立病院医療センターのペインクリニックでは実際の患者の治療を担当させてもらい，今まで学んだ色々な療法を応用してその効果を確認することが出来ました。

同時に西洋医学的なリハビリテーションの見学，スポーツ医学，脳血管障害者のリハビリテーションにおける鍼灸の応用等について勉強しました。

鍼灸は中国から日本に渡ってきてから長い歴史があり，日本独特の方法に変化してきたのがよくわかりました。

カイロプラクティク療法について3カ月見学と講習をうけてこの療法がどのようなものかよくわかりました。

筑波大学理療科では鍼灸の基礎的研究が行われており，そこでの勉強会に出席させてもらい，ここでの研究者達は毎日夜の11時過ぎまで研究をしており，非常に感銘をうけました。現在ここではサーモグラフィーの研究が行われていました。またここで視力障害者達の教育も見学させてもらいました。教師はスライドや黒板を使うことが出来ないので，はっきりとした発音で説明をおこなっており，生徒は本やノートは点字を使用してなかには録音器を使っている人もいました。

このような視力障害者達が熱心に勉強しているのをみて，私ももっと勉強しなくてはと思いました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

山下先生の御配慮により，当初の研修計画にもとづいたスケジュールを組んでいただき，ほぼ，当初の計画どおりの研修ができました。しかし，研修方法や色々な物事の考え方がブラジルで考えていたこととは多少の違いがあったが，これは国民性の差によるものと考えられました。

例えば，日本では東洋医学がひろく一般に受け入れられて普及していると思っていましたが，実際に来日してみると，東洋医学はまだ一部の人にしか受け入れられておらず，病院でも一部の病院が実際の診療に取り入れているのに過ぎないことがよくわかりました。

従って，健康保険も一部しか効かず，大部分の患者は自費で治療をうけています。そのために，鍼灸だけを学ぶならば，中国の方がよかったと人から言われました。

しかし，山下先生に出会え，西洋医学と東洋医学とを総合した治療が学べ，日本に来てよかったと思いました。

したがって，いろいろ考えてきた予定もほぼ行うことができ大変満足しています。

7. 合同研修会について

1. 第1回合同研修会（日本語の講習，日本の生活）について

日本に来たばかりの私にとってこの合同研修会は非常に為になりました。例えば，日本の日常生活における常識などの知識が全くなかった私にとって，先生方や先輩のお話が大変参考になりました。

先輩方は1年間の日本での生活を通して，非常に辛い思いをしたこと及びそれをどうやって克服したか，またやってよかったこと等の非常に貴重な経験を話してくれて，後輩達がうまく日本で研修ができるように指導してくれました。

またこのような合同研修会で広い範囲に新たな友達もでき，これからの日本の生活がよりなじみやすくなったようにも思いました。

日本語の読み書きが充分でない研修生にとってはこの合同研修会は大変な勉強になり，また日本での研修の一つのスタートになったことと思います。

研修の中で，日本の歴史，書道，お花，茶道の講習は日本の良さを少しでも多く理解するのに役立ったと思いました。

また色々な場所，例えば東京，三溪園，森林公園などの見学もまた楽しく勉強になりました。日本の道路とブラジルとの相違，日本の文化，工業の発達，日本の建築物等についてよくわかり，日本がどのような国であるのか理解できるようになりました。

このように，この合同研修会は私にとって非常によかったと思います。ただ，研修生全員がこの研修会に参加することができなくて大変残念だと思いました。

2. 第2回合同研修会について

1年がたって，また仲間の研修生と再会することができ，1年間の様々な出来事を話し合うことが出来ました。また，今度は18回の研修生を先輩として暖かく迎えてあげる番になりました。

同期の研修生との話し合いでは，1年の研修がとても充実していたという人もいましたが，一方，とても辛い思いばかりで研修がうまくゆかず，研修場所を変更したいという人もあり，皆で話し合ってその解決方法を考えたりすることもできました。

このようなことを考えてみると，1年前に先輩方が私達にどのような気持ちで話をして下さったのかよくわかるような気がしました。

また，箱根で一泊という大変よい環境をつくって頂いて，楽しく，心ゆくまで皆と話をすることができ大変感謝しています。

研修がうまくいっていない研修生にはもっと早くこのような機会が与えられれば，よりよい研修ができるのではないかと思いました。例えば，日本にきてから半年ぐらいの時期にこのような研修会が行われていたならば，これらの研修生は研修期間をもっと有効につかうことが出来るのではないかと思います。

しかし，1週間あった2回目の研修会は少し時間の無駄があったようにも思いました。もっと有効なプログラムが組めれば，皆との話合いがもっとできたのではないかとも思います。

研修会全般の感想ではこのような研修会は研修生にとって非常に大切なので，より細かく配慮されたプログラムを組んでいただけたらば，研修生にとってもっと為になると思いました。

8. 本邦での生活状況

日本へ来て1カ月半の合同研修を終えて大磯病院での研修のため大磯にきました。そこで，大磯病院のアパートで自炊生活が始まりました。初めのうち自炊生活に必要な物もなく，また勝手もわからずどうしてよいかわかりませんでしたが，大磯の人達が必要なものはすべて揃えてくれ，またいろいろ親切に教えてくれたのでとくに困ることはありませんでした。種々の手続き方法，例えば外国人登録証の登録，アパートの光熱費の払い方，電話の購入法なども教えてもらい，とくに困りませんでした。

研修場所の環境も良く，研修先の先生方や病院の人達はいろいろ気をつかってくれて，勉強が充分できるようにしてくれました。このようにして，12月まで不自由なく生活を送ることができ，東洋医学ばかりでなくリハビリテーションと日本について理解することができ，日本の良さも段々分かるようになりました。

例えば，生活のなかで感じたブラジルと日本の大きな差は，時間にたいする考え方です。日本ではきめられた時間を守り，時間に遅れないようにしますが，これはとても良いことと思いました。交通網もブラジルに比べて非常に便利であり，日曜日にもデパートや色々な店が開いており欲しいものはなんでもありましたが，値段が高いのには驚かされました。このように初めは，見るもの，聞くものすべて珍しく子供になった気分であちこちを見てまわりました。日本の生活に馴れてくるにしたがい，日本人の物の考え方とブラジル人の考え方と微妙な差があるように思えました。それは，ブラジル人

はなにか困難なことに出くわすと，「まあ何とかなるだろう」とあまりこせこせせずに，おおらかに考えてしまうのです。それに反して，日本人は生真面目でミスを犯すのを恐れ，なにをするのにも慎重で考え過ぎてしまうように思えました。しかしこの真面目さは，他人に信用を与え，安心感を持たせるように思えました。このような細かな感情の差がブラジル人と日本人との間に存在するように思われました。

12月の末には東京の国立病院での研修のために東京に引越しました。東京では国立病院の研修棟に入居することができました。東京での生活もとくに困ることはなく，東洋医学の勉強も充分することができました。また，カイロプラクティクやエステティク，マッサージ，リハビリテーション，鍼灸の基礎医学の勉強等のため，多くの施設にも勉強に行かせてもらいました。研修生活の中で多くの先輩や友達とも知り合えて，寂しい思いをすることは全くありませんでした。

また，日本の文化に触れるように，いろいろな劇場や展覧会を見にゆきました。

例えば，宝塚，能，歌舞伎，クラシックバレー，相撲，野球，絵画，彫刻，花火大会を見にいったり，布染を実際にやってみたり，数えきれないほど多くの物を見たり聞いたり，経験したりしました。また生まれてはじめてスキーに挑戦して滑れるようになり，またテニスの合宿にも参加させてもらいました。さらに日本語ワードプロセッサーにも挑戦し使えるようになりました。

その一つ一つの中での感動は日本でしか味わえないものであり，日本人のなかにしみこんでいるものであると感じました。

こうして，日本の生活と日本人の中にとけこんで，日本を本当に理解できるようになりたいと考えて生活してきました。

日本人はその長い歴史を大切にするべきであると考えました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言と要望事項

1. 日本に来る前に，留学経験のある研修生と話し合う機会を持つ必要があると思います。
   ある程度の基礎知識をもって来れば早く日本に馴れて研修することが出来る。
2. 食事の問題
   日本に来ても食事に馴れない研修生がいるようですが，これに対する何らかの対策が必要かもしれない。
3. 実際の研修先が日本に来てからもなかなか決まらないので，不安であったり，実際の研修先が自分の考えていた所と大きく違っているような場合もあるようです。
4. ＪＩＣＡ主催の旅行はとってもよいと思いました。とくに東京見物，箱根，森林公園，三溪園，東芝工場などいろいろ勉強になったと思います。しかしもっと日本の文化がわかるように，日本独特の演芸や博物館等の見学があった方がよいと思いました。また日本の教育がどのようになっているのか実際に見るのもよいと思いました。
5. 研修期間18カ月では研修が不十分であった研修生にはもっと研修期間を延長する機会を与えて

欲しい。

6. 帰国する時に空路を変更するゆとりがあったら良いと思いました。

7. 東京など生活費がかかるところではもう少しお金があったら良いと思います。

8. ブラジルに帰国してから何年か経過してから再び日本を訪れる機会を出来れば与えて欲しいと思います。

10. 所　感

高校生の頃から将来は日本に留学することを希望していました。しかし大学を卒業してからでなくては資格がないということで長い間待っていました。しかし卒業後，1年目に留学生試験を受験することができず，2年目にＪＩＣＡの試験をうけることができました。このようにやっと夢がかなって日本にきましたので，はじめは見るもの，聞くものがなんでも珍しく感じました。ブラジルで考えていたことと，実際に見るものとでは大変な違いがありました。例えば，日本は人口が多いので住む所は皆兎小屋みたいだと聞かされてきました。しかし実際に来てみると，日本にはまだ広い所が沢山あり，自然を大切にしてると思いました。狭い所に住んでいるのは東京の近くに住んでいる人達だけで，これは多くの人達が田舎に住みたがらず，東京に集まってきている現象だと思いました。また日本人はロボットのようにみな同じ服を着て，同じ習慣を持っていると思っていましたが，実際に住んで多くの人々と接してみると，そのような印象はなくなり，それぞれの人が自分の考えを持って生活しているのだと気がつきました。

しかし日本は裕福で，今の若い人々は自分の欲しいものが簡単に手に入るので，努力や苦労をしなくなってきているのではないかと思いました。

また物質が優先して人と人との付き合いが薄れているとも思いました。

しかし日本は安心して暮らせる所です。このような環境で東洋医学を勉強させてもらい，さらに日本の社会勉強させて貰って感謝しております。

日本は素晴らしい歴史も持ち，長い伝統が生きています。鍼灸もその一つで，中国から伝来してきてから長い歴史の中で日本人にあった日本独特の鍼灸になっています。

日本ではこの鍼灸を視力障害者の人達の職業として訓練しているのは大変よいことだと思います。しかしまだ鍼灸は広く普及しているとは言えず，健康保険の適用にもならず，また治療を受けている患者も老人が殆んどで，若い人が少ないように思えました。

日本では東洋医学は鍼灸だけではなく，マッサージ，指圧，按摩，接骨がふくまれています。この1年半にいろいろな鍼灸の方法，リハビリテーション，カイロプラクティク，エスティックなどを勉強させて貰い，ブラジルでのこれからの私の仕事に多く役立つものと考えています。

ブラジルでは母とともに日本で勉強したことをなお発展させ頑張っていこうと思います。

玉田剛エジソン

1. 研修機関　(1) 前期　神奈川県農業総合研究所（生物工学科）
　　(2) 後期　東京都農業試験場（花植木研究室）
2. 研修期間　昭和62年4月～昭和63年9月
3. 研修職種　花卉（バイオテクノロジー）

4. 当初の研修計画

私の大きな夢は，日本に来ることでした。それは，ブラジルで日系人の中に生まれ育ち，いろいろと日本の進んだ情報を聞きながら勉強をしてきたからです。それに祖父母と父の故郷を訪ねたいという気持を強く持っていました。

ブラジルの大学（農学部）を来業して，しばらく経った1987年4月にこの夢がかなえられました。国際協力事業団の第17回移住者子弟技術研修生として日本に来ることができたのです。

私の家は花卉栽培農家であり，私自身もそのことに強い興味を持っているので，日本の進んだバイオテクノロジーの技術や花卉関係の技術と共に日本の社会と文化を身につけて理解できるようになりたいと思います。

5. 研修概要

前期研修は神奈川県農業総合研究所の生物工学科で昭和62年5月から昭和63年の3月まで受けました。この期間の研修内容は次の通りでした。

- 実験室内での正しい手順
- 培地の作製方法（手順）
- 組織の滅菌方法（手順）
- 試験管内での細分化方法
- 試験管内での発根用方法
- カルスの増殖用方法
- 植物の生長点培養方法（手順）
- 葯培養方法
- 移植方法（手順）
- 順化方法

後期研修は東京都農業試験場の花植木研究室で昭和63年の4月から昭和63年の9月まで受けました。

試験場では，実際の栽培関係を目指して，レベルアップの農園を紹介して頂き，進んだ技術を身につけることができました。その他，私の興味を持った植物を栽培している農園で実地研修をさせて頂きました。その中で，フリージアとガーベラに特別興味を持ちました。

シリージアに関しては八丈島の球根生産者と東京都農業試験場の八丈島試験地に3回ほど行きました。

第1回目：開花時期，病気の判断，薬剤使用

第2回目：球根の掘出し，調査，保存

第3回目：土壌消毒，植え付け，低温処理

ガーベラに関しては東京の比留間園芸に行き，底面灌水，交配方法などを学びました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の計画と実際の研修内容を比較してみると大分違ってきましたけれど，それは私達がほとんど日本の社会と文化を知らなかったためだったと思います。やはり日本の会社，又は研究所，試験場，学校などの日本的なシステムについていかなければ研修の成果がえられなかったと思います。私は出来るだけその通りに研修に努めたので大変良い勉強になったと思います。

7. 合同研修会について

研修生全員が集まる機会は9月と4月の合同研修会のたった2回だけである。私達17回移住者子弟技術研修生には，昨年9月の合同研修会が行われなかった。これは，研修活動における生活及び，学習などに非常にマイナスであった。研修における先輩達の貴重な経験を無駄にしないために交流の場がぜひとも必要である。

これからの研修生達のためにもぜひとも交流の場を作っていただきたいと思います。

8. 本邦での生活状況

私は1年半海外移住センターで生活しました。このセンターでは，おおぜいの南米や日本の研修生がいるのでとても楽しく生活することができました。その上，担当者が同じセンターにいるので，いつでも相談にのってくれたので問題はありませんでした。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

研修の成果が上がるためには，できるだけ研修先の先生や職員達と友達になれるよう努力し，日本的システムに合わせて学習すべきだと思う。

日本にきたからには，できるだけ自発的に日本語を勉強した程うが良いのではないだろうか。日本の社会や文化にも，関心を抱いて程しい。

10. 所　感

この1年半の研修が終わりこれから帰国して，日本で学んだことをブラジルで試行錯誤しながら生かして，自分の経営を発展させると共に我が国の花卉園芸の進歩に貢献したいと思っております。

それから，生まれた国を訪ねたことがない両親を一度でも来日させたい気持です。

矢　野　美　和

1. 研修機関　(1) 前期　熊本県栄養士会
   1. 宇城農業改良普及所
   2. 八代農業改良普及所
   3. 慈愛園パウラスホーム特別養護老人ホーム
   4. 国立熊本病院
   5. 西郷病院

   (2) 後期　熊本県栄養士会
   1. 熊本商科大学
   2. 慈愛園乳児ホーム
   3. マリスト学園
   4. 国立熊本病院

2. 研修期間　昭和62年4月～昭和63年9月

3. 研修職種　栄養学

4. 当初の研修計画

研修目的としては，日本の栄養学を学び，日本人の食生活，又現在の日本人の栄養状況を勉強することでした。そのため，成長期，成人期，老年期の栄養について，色々な所で研修を受ける計画でした。

5. 研修概要

私はこの1年半の期間に連体所で研修をし，日本人の食生活，又，日本人の栄養状況を広く学ぶことが出来ました。国際協力事業団の皆様をはじめ，熊本県栄養士会の方々の御後援のもと，又，研修先の先生方の御指導のもと，無事研修を終えることが出来たのを心から感謝します。

次に研修内容，また感じた事等をまとめて書きたいと思います。

1. 県農政部：　2カ月の期間で農業改良普及所の生活改善普及員の皆様と農村や農家の視察に行き，農村の婦人会の農産加工講習会手づくり料理講習会，婦人学級などにも参加しました。又，八代のい草刈りで一番忙しい時期に行なわれる共同炊事にも実習に行きました。生産現地研修としては田植え，麦，メロン，スイカ，みかん，梨，ぶどう，野菜や沢山の農産物の作業を見て回りました。日本の狭い土地を農家の人々は上手に利用していることには感心しました。

生活改善普及員の活動はとても大切だと思いました。

農村の婦人は常に自己研鑽につとめ，わが家の生活改善はもとより，地域社会づくりへ精力的に活動を続けている。でも今日の農業情勢はとてもきびしく，その変化にとまどいを持っている。ですから婦人会の講習会などは一人一人の問題点の解決を見い出す場でもあると思いました。

2. 老人ホーム： 日本はこれまで高齢化社会を急テンポで迎え，平均寿命は女性が80才をこえるなど，男女とも世界一の長寿国になりました。日本の老人は経済的不自由はないと思いますが，精神的には問題点を持っているんではないかと思いました。こういったことを感じたのは研修でお年寄りの毎日の生活のありさまを見てからです。特別な施設，サービス活動を行なっている，家族が安心出来る老人ホームはますますふえていますが，そこで毎日生活をしていますお年寄りの心には悲しい思いが沢山あるように思いました。

栄養に関しては老年期の栄養を学ぶことが出来ました。

3. 国立病院と個人病院： 病院給食は患者の病状に応じて適切な食事を与え，医療の一環として欠かすことの出来ない重要な栄養業務です。研修内容として食材管理，作業管理，衛生管理，帳票管理，そして実際に特別食と一般食を調理し，盛付けなどをしました。

病院で行なわれています栄養指導に参加しまして，最も感じたのは日本国民はブラジルと違って，知識，文化，食生活が平均的であって，指導は複雑ではないこと。

本当に疾病と栄養は大きなつながりがあるとつくづく思いました。

又，各病院の特色，例えば活動，治療食内容，患者サービス，栄養指導方法等を学ぶことが出来ました。病院に関する問題点も少しは理解出来るようになりました。

4. 商科大学： 成人期の栄養を勉強するため，大学の食堂で研修をしました。ブラジルの大学とは違って料理の種類が多いと思いました。ですから学生は自分の好みで選ぶことができまして，それをバランス良く取っているかが一つの問題点だと思いました。

三食きちんと，バランス良く取ることは学生一人一人に係わりがあると思いますので，やはり前期に正しい食生活を身につけることは大切だと思いました。

他の大学の食堂も見学させていただき，とても良い勉強になりました。

5. 乳児ホーム： 子供はどの国でも同じ。すなおで，純粋で，とても可愛いです。しかし，日本の子供はブラジルの子供と違って物に恵まれているとつくづく思いました。中には貧しい家庭で生まれた子供もいますが，日本では児童福祉が進んでいるため貧しい子供達をあずかる設備が整っていて，栄養の面から見ても豊かな生活をしているように思いました。ブラジルでは必要な食物も買えないため栄養失調で死ぬ子供が沢山います。日本ではとても考えられないことです。

6. 中学校と高校： ブラジルでは学校給食というのはありませんが，昔の日本のように休憩の時間に豆乳，粉乳，あるいはちょっとした食事を与えています。それは貧しい子供達の栄養を少しでも補うためです。

学校給食の目的の一つでもあるが，日本で最も大事なのは食事の正しいあり方を身につけさせ，将来の食生活に役立てること，家庭でよくない習慣を改めるようにして，地域社会の食生活の水準を高め，そして豊かな人間性を育成することだと思いました。

これらの研修の他，病院や老人ホーム，学校給食，食品工場見学，又，学会，講習会，研修会，

研究会，セミナー等に参加させていただき，とても良い勉強になりました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

こうして研修を終えて，振り返って見れば，私が思っていた以上に良い研修が出来たと思っております。

多くの所で研修し，見学させて頂き，ブラジルと全く違った栄養状態にはすぐ気づきました。国はそれぞれ違った文化，風習を持ち，食事はその一つである。日本人の食生活を勉強して，日本をもっと理解出来るようになったと思います。

7. 合同研修会について

合同研修会は研修生全員が集まって，それぞれの研修状況を話す，とても大切な機会だと思いました。又，慣れない日本の生活，社会，人間関係，色々な経験，問題点等についてお互いに話し合う機会でもあります。

私達は残念ながら1回の合同研修会を中止されましたが，これからの研修生のため，毎年続けて欲しいと願っております。

8. 本邦での生活状況

最初の40日間の海外移住センターでの生活は南米の人ばかりでしたので，日本に来ている感じはしませんでした。毎日皆と一緒に生活をしているうち，親しくなり，姉妹のようでした。私にとっては初めての団体生活でしたが，あれほど楽しいとは思っていませんでした。とても心強かったです。

この期間が終わり，私は熊本県へ立ちました。そこで又，親類，国際協力事業団の皆様，栄養士会の皆様があたたかく迎えて下さいました。アパートを借り，自炊をし，又違った生活が始まりました。熊本では日本人の友達が沢山出来まして本当にうれしかったです。国際交流クラブにも参加し，日本人だけではなく，又他の国の友達も沢山出来ました。

日本は父母の国であって，私達日系人はブラジル人として，ご恩返しのため少しでも日本の文化を身につけなければ，と思いまして，生け花，書道，茶道を学びました。又，日本のすばらしい春夏秋冬を体験し，もう一つの良い思い出になりました。毎日の生活は楽しいだけではなく辛いこともあるのは当然なことですが，一つ一つ表われた問題点は自分をためす，自分を発見する，自分が成長する機会でした。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

私の日本語が十分でなかったため，研修先で困った時がありました。ですから，今後の子弟研修生には漢字の読み書きもしっかり勉強して来て欲しいと思いました。

もう一つは，自分の研修目的をはっきりして来ること。そして，たとえ研修内容が違っても最後まで一所懸命頑張ること。きっと何かで役に立つと思います。

10. 所　感

日本は美しい島国です。気候は温暖で土地も肥沃です。経済面でも成長率は世界第1位と言われて

います。こういった国で研修が出来たのを本当にありがたく思っております。そして父母が生まれ育った国へ来て自分がどこまで日本人でどれだけブラジル人か，をためすことも一つの夢でした。

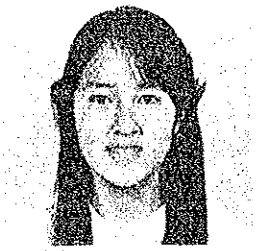
日本語の講習から始まり，連体所で研修を受け，栄養部門だけではなく，色々なことについて学ぶことが出来ました。

この1年半の日本での研修生活は自分の人生に最高のプラスな期間でした。

帰国後，日系人の人達，又ブラジルの人達に日本で学んだ事を出来るだけ多く伝えたいと思います。

最後になりましたが，国際協力事業団の皆様をはじめ，熊本県栄養士会の方々，研修先の皆様，そして友達，大変お世話になりありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

砂　田　直　美



1. 研修機関　石川県立保育専門学園
   同　上
2. 研修期間　昭和62年4月～昭和63年9月
3. 研修職種　幼児教育

4. 当初の研修計画

日本の進んだ教育システムを学びそれと共に日本の文化や風習などについて理解を深め，ブラジルの子供達に伝えることが目的でした。

5. 研修概要

石川県立保育専門学園にて1年半の間研修をさせて頂きました。

① 前期研修科目内容（昭和62年5月～63年3月）

保育原理Ⅰ・体育・精神衛生・経済学・教育原理・社会福祉Ⅰ・言語・小児栄養・視聴覚教育・自然・音楽リズム・絵画製作・音楽Ⅱ・小児保健Ⅰ・栄養原理Ⅰ・音楽Ⅰ・乳児保育Ⅰ・乳児心理学

② 後期研修科目内容（昭和63年4月～63年9月）

老人介護・児童心理学・社会福祉Ⅱ・臨床心理学・教育心理学・倫理学・哲学・絵画製作・健康・養護内容・卒業研究・体育・特別講義・文学・児童福祉・小児保健Ⅰ

学園で履習した教科全体の知識技能を基礎としながら，総合的な保育の理論や技術を体験的に習得するため，色々な施設や保育所で実習を行わせて頂きました。

昭和62年11月　…聖霊病院聖霊愛児園にて実習を行う（養護施設）

昭和62年11月　…仏子園にて実習を行う（養護施設）

昭和63年　1月　…広岡保育所にて実習を行う（精神薄弱児施設）

昭和63年　5月　…竜雲児保育園にて実習を行う（乳児保育）

昭和63年　5月　…泉保育所にて実習を行う（付属保育所…1～2才児担当）

昭和63年　5月　…広岡保育所にて実習を行う（付属保育所…3～4～5才児担当）

保育実習では児童の実際の生活にふれることが出来，具体的な人間関係を通じて，児童観・保育観を形成し，保育者として望ましい態度と自覚を身につけることなど様々なことを学ばせて頂きました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

予想以上に研修をスムーズに進めることが出来ましたのでほんとうによかったと思っています。学園以外の所でも色々なことを学ぶことが出来たように感じます。

7. 合同研修会について

合同研修会は，お互いにそれまでの経験や悩み事などを語り合う場所でもあり，本当に大切だと思いますので，昨年の9月に行われることになっていた合同研修会がキャンセルされたことは，ほんとうに残念に思いました。

8. 本邦での生活状況

私の場合，親戚の家でお世話になっていましたので，これといった困ったことはまったくありませんでした。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

まずは「自分の希望と目標を達成させる……」という心掛けが大切であるように思われます。そして日本語は出来るだけ勉強して来ること，ある程度の日本語が出来れば研修先へ行ってもスムーズに研修を進めることが出来ます。

10. 所　感

日本で過ごさせて頂いた1年半…，それはどんな大金にも変えることの出来ない貴重な毎日でもありました。

私達は確かに日系の顔をしているのですが生まれて育った環境が違うせいか日本の人達にはとてもふしぎな存在であるように思われることもあったようです。でも「やっぱり日系移住者達の子供であるだけあって君達は昔の日本を思い出させてくれる…」とある先生はおっしゃって下さいました。このように，たとえ生まれて育った国は違っていても，私達は日本語を通して色々な人達と交流を深めることが出来ました。故郷にいる時には気が付かなかったことでもこちらへ来て「あーなるほど…」と頷けるようになったこともずいぶんありました。人間には「やってみよう，頑張ろう」という気持さえあれば不可能なことは無いということもよく分りました。ですので，これからもその「やってみよう，頑張ろう…」という気持を忘れずに日本で学んだことを多くの子供達に伝えていきたいと思っております。

国際協力事業団の皆々様，たいへん長い間お世話になりました。1年半の研修期間を無事終了することが出来ましたのも皆々様方が暖かく見守って下さったお陰でございます。ほんとうにどうもありがとうございました。

山　本　洗　心

1. 研修機関　長野県塩尻市大字洗馬6157番地青柳孝様方
　　長野県長野市真島町川合5番地羽生田春樹様方
2. 研修期間　昭和62年4月～昭和63年9月
3. 研修職種　露地野菜
　　前期　野菜栽培の実習（レタス，キャベツ）
　　後期　果樹栽培の実習（リンゴ）

4. 当初の研修計画

当初の研修計画は第一希望が野菜栽培についての研修で，主としてニンジン，レタス，キャベツでした。

第二希望が果樹栽培の研修で，希望作目はカキとビワです。

5. 研修概要

研修の前期は露路野菜の産地に入ってレタス，キャベツの実習をしました。春から秋にかけての半年間でしたが，気候，季節の移り変わりに従ってとても敏感な反応を示すレタス，それを長年に亘る経験と知識を生かしながら対応していく農家の方の気配り，そして管理法などがとても印象的でした。また品種の多様さなどもブラジルと違って深く研究されているということを感じさせられました。農業機械においても小さな畑でもむだの無いように使えるようになっていて労賃の高い日本だからどんなことでも労力を省略するよう研究されているということを感じました。

一般的な管理等はブラジルのものと大きな違いはなく，農薬等も同様の物を使用しているようです。

半年間のレタスの実習で一番感心したのは，この地方の人は冬作業が出来ないためその分夏に頑張っているということです。朝は夜明けと共に始め，夜は遅くまで本当によく働くと思いました。

後期は全く変わって，リンゴの研修をしました。秋（10月）から始めましたのですぐに収穫に入りました。ブラジルでも栽培されているフジ種ですが，品質はブラジルのものとは比べものにならないほどすばらしく，日本の消費者がいかに良質の物を要求しているかということと，生産者達のそれに応えるだけの技術と努力があると思いました。

収穫を終えて冬になるとリンゴの木の剪定を教わりました。1本1本の木の勢力とバランスを考えながら枝を切っていくので大変神経の疲れる作業でした。2年，3年先のことを考えて整枝していかなければならず上手に剪定できるようになる為には長年の経験がいるということが分かりました。

春になると芽がふくらんできて花が咲き，そして葉が出てくる，季節の移り変わりがはっきりと感じられ，毎日が新鮮でとても楽しいものでした。

春に咲いた花が実になり，日に日に大きくなり，その間に摘果を何度も行い，最終的には良質のものだけが残されていきます。

約１年に亘る実習中，収穫，出荷，剪定，摘果，その他の管理等について学びました。１個のリンゴが出荷されるまでにいかに手がかかっているかということをつくづく感じました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

前期に行った野菜は希望通りの作目でしたが，リンゴは全く考えもしなかったものです。私が配属された長野県には希望種目が無いため仕方なくとられた処置でしたが，その結果はけっして悪いものでは無く，それなりにすごく勉強になりました。

帰国後もチャンスがあればリンゴにも挑戦してみたくなりました。

7. 本邦での生活状況

お世話になった２戸の農家では家族同様に扱っていただきましたので，一度も帰りたいと思ったことも無いほど楽しいものでした。もちろん多少の習慣等の違いはありますが，慣れてしまえば問題はありませんでした。

色々な方とも友達になって日本人の生活，考え方などについても学ぶことができました。

スポーツ，お祭などにも参加してとてもいい思い出になりました。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

我々同様農業を将来の職業にめざしている者にとっては試験場等で農業技術を学ぶということも決して悪いことでは無いと思いますが，それにも増して一農家で生活を共にしながら実習をするというほうがより多くのものを学ぶことができると思いますので，この種の研修制度は今後も続けて行ってほしいと思います。

9. 所　感

この１年半に亘る研修中，２農家と生活を共にして，農業技術はもちろん，その他にも経営，生活，etc. と多くのことを学ぶことができました。多くの人ともふれ合い，農業のことだけではなく違った多くの分野についても学ぶことができました。また実際にブラジルから離れてみて，今までは内側からしか見ることが出来なかった国も外から見れば今まであまり気づかなかったような所や，よい点，わるい点などが少し今までよりわかるようになった気がします。

帰国後は，この体験を土台とし，学んだことを十分に生かし，自分の目標に一歩でも早く近づき，またブラジルの農業の発展の為にも頑張っていきたいと思っています。

石　東　公　平

1. 研修機関　(1) 前期　上條利幸様
　　(2) 後期　塩沢　崇様
2. 研修期間　1987年4月～1988年9月
3. 研修職種　酪農と鉢花

4. 当初の研修計画

私は肉牛と鉢花，かき，すいか，メロンなど勉強したいと思っていました。

5. 研修概要

現在まで勉強になったことは，ただ頑張るだけではよくないということです。頑張って身につけることが大事なことと思います。

研修時間の最大利用が大事と思いました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私は酪農と鉢花の研修については真実によかったと思っています。

7. 本邦での生活状況

日本の学生については我儘な人が年々とおおくなってきていると思います。

農家に関してはそれぞれちがうけど，皆さん頑張っています。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

研修を通じてブラジルという国の名前を立てるように頑張ってもらいたいと思っています。

9. 所　感

私は実際に鉢花の研修して，思ったより難しかったです。けれどおもしろい仕事とかんじております。

金野敏雄エジソン

1. 研修機関　(1) 前期　(社) 国際農業者交流協会
　　中伊豆町　井上　亘様
　　富士宮市　佐野光司様
　　(2) 後期　掛川市　萩田知博様
2. 研修期間　昭和62年4月～63年9月
3. 研修職種　稲作・蔬菜（わさび，水稲，苺，野菜，メロン，茶，キウイ）

4. 当初の研修計画

当初の研修計画は，野菜，果物の栽培についてすすんだ技術を学ぶことでした。

せんぞのうまれたところを見ることも一つのゆめでした。

5. 研修概要

わさびの栽培，うえつけ，しゅうかく

水稲 ― 稲のなえづくり，管理，田植，しゅうかく

苺のかんり，しゅうかく，なえづくり，定植

色々な研修に参加することができ，思い出に残ったことも，勉強になったこともたくさんありました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の研修計画と実際の研修内容と比較して多少違ったこともありましたが，プラスになる点はたくさんありました。

7. 合同研修について

合同研修会はとても楽しかったです。

8. 本邦での生活状況

日本での生活は，困ったことはありませんでした。家族の一人としていっしょに食事をしたり，仕事もいっしょにして色々なぶんやにおよぶ話をしてじゅんちょうにいきました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

研修生たちがあつまって話し合うことが大切だと思います。先輩と後輩のコミニュケーション。

みんなどんなことをしているか，じゅんちょうにいっていますか，もんだいがあるかをみんなで考えて，どのようにしたら良いかわかりとても良かったと思いますので，この機会をもっともてたらいいなと思います。

10. 所　　感

研修を通して，色々と勉強になりました。帰国後は日本で学んだこと，経験したことを生かして少しでもブラジルの発展に役立てたいと思います。

小　林　栄　美

1. 研修機関

(1) 前期
- 小笠郡大東町　水野園芸　4月~7月31日
- 浜松市志都呂町　斉藤養鶏　8月~10月
- 静岡市聖一色　寺尾農園　11月~3月

(2) 後期　清水市梅ケ谷　大石施設野菜　4月~9月

2. 研修期間　1987年4月～1988年9月

3. 研修職種　・施設園芸　・養鶏　・果樹，茶園複合　・柑橘，施設野菜

4. 当初の研修計画

(1) キウィフルーツがまだブラジルでは研究中でしたので，その栽培についていろいろ学び，新しい品種，作り方，剪定のしかたなどをやって見たかったです。

(2) ブドウ，梨の日本での集約的農業を学びたいと思いました。またはハウス栽培での気象条件，温度かんけい，霜害と風，土じょう条件，肥料，人工受粉。

梨，ブドウの品種，剪定のしかた，良い農薬とか，果樹を病気からどのように守るか，その一番良い方法などについて学ぶ計画でした。

5. 研修概要

私は静岡県で1年6カ月間の研修をしました。

(1) 施設園芸（メロンといちごのハウス栽培）

- メロンの種蒔きから収穫まで3カ月半で見ることが出来ました。

メロンの定植，誘引，消毒，交配，メロンは非常に温度管理，または水掛けの管理が難しいものとよく分かりました。なぜかというとメロンの一番大事な所は，ネットでそのネットの形で全部がきまります。例えば水が多すぎるとネットは良くつかなく，メロンも大きすぎて割れてしまいます。ですからその点が細かくて難しいです。

- いちごはアイベリーとホニュー，苗を作る時と出荷だけを見ることが出来ました。いちごも初めてなのでとても参考になり，柔らかくて非常に丁寧にあつかわなくてはならないことがたいへん難しかったです。苗作りもちょっと変わったことに気が付いたのは，早く生長するために富士山の八合目の山の上に持っていき，そこの所へ1カ月から2カ月ぐらい植えておくみたいです。

(2) 養鶏

・集卵，鶏の予防注射，鶏ふんの袋詰め

何の経験もなくて慣れるまではとてもたいへんでした。びっくりしたのは全部機械式全自動になっていて，時間になるとそれが全部動きだすのです。人手があまりいらない方でした。しかも何一つむだにしないように全部りようして何かにつかっています。

たとえば廃鶏，しんだにわとりなども全部，鶏ふんにしてりようしています。

(3) みかん，キウィフルーツ，お茶について

みかんは出荷だけしか見られませんでした。

キウィフルーツは出荷をするにあたり選別，選果の段階でとても丁寧にしかも等級別を厳しくするのにもびっくりしました。それが終り，冬の剪定を学び，なるべく枝がこまないように少しにしておいていい芽を残すのがとても難しかったです。

お茶についてはほとんど学ぶことが出来ませんでした。しかし，その間の仕事では，茶樹秋整枝，茶園防除，茶園除草を学べました。

お茶畑の肥料入れと温度管理

(4) 葉菜の出荷

(5) わさび，枝豆，きゅうりについて

わさびは収穫の所でしか学びませんでした。

ハウス枝豆の栽培管理技術（育苗，定植，収穫，出荷）

きゅうり－ハウス抑制栽培管理（育苗，接木，定植，収穫，出荷調整作業）

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

この1年半を振り返って見ると，本当に時間の過ぎるのが早く，もう最後となってしまいました。当初の研修計画を思いだして実際の研修については，いままで一度もやってみたことがない，生まれて初めての経験なので何も分からず，でも一所懸命それにむかって努力して，何もかも一つの人生の勉強として非常に良い研修生活をおくることが出来ました。参考になり，良い研修結果で無事終えることが出来ました。

まず私の研修は自分の希望とは全然ちがう実習でした。でも今は後悔していません。なぜかというと，私が今まで知らなかったことや見たことがなかったことを自分の手で作り，仕事をして目でたしかめることが出来，いろんな新しいものを知ることが出来たのもこの研修のおかげです。私の一番なかのいい友達がいてその人にいつもこう言われていました。全部自分でやったこと，覚えたことはけっしてむだにはならない，いつかは役に立ち，覚えていて良かったという日がかならず来ます。ですから出来るだけチャンスをみのがさないようになんでも若いうちに学んでおいたらいいと言われました。それを参考にいつも，いままでがんばり，いまからもがんばっていきます。

7. 本邦での生活状況

いままでいろんな家族の中で生活をしてきましたが，それぞれが全部ちがい，その中に入り慣れるまではとてもたいへんでした。

最初に少し困ったのは言葉遣いでした。土地によって変わった言葉をつかうので分からないことが沢山ありました。日本人は，具体的にいうとブラジル人とちがってちょっとものをはっきりさせない所がありますが，でもとってもまじめで親切な方達が多いです。そして日本人はとてもていねいでこんきがあります。私も日本に来てからいろんな活動などに参加して沢山の人達との交流が出来，いろい

ろお話ししてもらったりしたこと，いろいろ教えてもらったことなどが参考になり，日本の若い人達の考え。教育，文化などが良く分かりました。

日本の物の便利さにもとても感心しました。

私の研修は季節によっては全部反対でした。夏はハウスの中で仕事をして，冬は外の山の上で仕事をしてとても寒かったです。ですから非常に夏は暑くて冬はとても寒さがきびしいことに気付きました。

海外での研修，農家生活の体験をもつことが出来，私にとってはこれからの人生を歩む一つの経験として自分の将来に対していい勉強になりました。

自分が住んでいる社会とは発展段階が，そして文化，教育，風習，はては技術とか文明まで違った所で生活することは，まして若い時に体験するのは本当に素晴らしいことで，何よりも物を見る目が大きく変わり，視野が広がります。人間の成長につながるものだと思います。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

今から出来ればもっともっと国際的になって外国との交流を深め，広い心をもっていろんな体験をして，良きこの日本での習慣や行儀作法といったものをしっかり身につけておくのは本当にいいことだと思います。

これからも出来るだけ多くの若い方達にこの研修を経験してもらい日本語そして日本の農業，教育，文化，歴史，いろんな点から少しでも祖国である日本を理解してもらったらいいなと思います。

9. 所　感

私は日本人で，外国で生まれましたが日系人としてほこりをもって，日本語を勉強しておいて本当に良かったなと，今になって非常に感じます。なぜかというと日本語が出来なければたぶんこうして日本にこられるチャンスもなかったかもしれません。私は自分で日本語を勉強するよう努力し，また，小さい時から両親に日本語の必要性を良く聞かされたことがとても参考になり，両親に感謝しています。

昭和62年4月10日に日本に来て生まれて初めて外国での生活をするようになり，農家に滞在してその家族の一員となって生活し，農作業に従事し体験することを通じて，日本の農業または農村生活を理解することができました。交流会での人と人とのふれ合いももちたく，出来るだけいろんな所へ参加しました。

今までの研修，富士登山，いろんな国の人達があつまり最高の国際交流でした。

こうしたいろいろな交流会で非常に沢山の友達が出来，とても自分にたいする考え方が広くなり，視野を広め，人と人とのふれ合いが深まりました。農業についてこちら日本では，小さい所で沢山の物を取り，いかにじょうずに作り，見た目がきれいに，おきゃくさんに喜ばれるように丁寧にあつかい，良い品物を取るのに私はびっくりしました。本当にせまい面積から高い生産性を追求する集約農業は非常にむずかしいことと思いかんしんしました。今までまったく経験のないことばかりの研修を

していましたが実際は参考になり，とても自分自身にとっては最高に良い勉強と沢山の思い出が残りました。

私の希望は果樹でありましたが，少しも見ることが出来ず終わってしまい，最初に考えた時少しショックでした。

でもこの1年半無事に最後までとても良い研修が出来まして，いろいろ勉強になりこれを参考にこれからも日本で学んだことを出来るだけ育ててみたいと思います。新しい技術などもいくつか身につけることが出来，事業については向こうとこちらとは事情が根本的に異なるので全部は思うとおりにはうまくいかないと思いますが，その一部でもいろいろ研究したいと思っています。本当にいままでいろいろお世話になりました。私も，これからこの日本での1年半の研修を思い出してまだまだもっともっと負けないように頑張っていきます。

出会い，ふれ合い，そして思い出が沢山おみやげ話として残りました。

“寒さを知って太陽の暖さを知る”

後　藤　鶴　代

1. 研修機関　(1) 前期　阿部光則様（ 4月18日～10月31日）
　(2) 中期　鎮西　徹様（11月 1日～ 2月28日）
　(3) 後期　阿部光則様（ 3月 3日～ 9月 8日）
2. 研修期間　昭和62年4月～昭和63年9月
3. 研修職種　果　樹　栽　培（ぶどう，リンゴ）
　花鉢施設栽培（シクラメン，その他鉢物）
4. 当初の研修計画
- 進んだ国日本でどのように農業を続けているか。
- 昔から農業を続けて来まして，それについて土壌の状態，現在の土壌に対する取扱いなどを知りたかった。
- この研修で農業技術の習得はもちろんですが，その他，日本の民族，歴史，文化，伝統，習慣などを知りたかった。

5. 研修概要

私は長野県中野市の阿部光則様のお宅で実習をし，1年間お世話になりました。そちらでは果樹栽培でした。

ハウスぶどう　3600 m²　巨峰

露地ぶどう　0.5 hectare

リンゴ　　0.65 hectare

ぶどうの栽培については一緒に作業をして学んだことは，剪定，芽かき，誘引，房の切込み，摘粒などでした。

ハウスぶどうの管理も大変良い勉強でした。

リンゴについても同じように剪定から出荷までの作業をやりました。中野市では農業組合が進んでいて，新しい情報はすばやく農家に伝わってくるシステムでした。

• 11 月から 2 月末までは飯田市の鎮西様のお宅で実習をし，4 ケ月お世話になりました。

施設：1600 坪　ハウス

鉢物栽培　シクラメン　7 万鉢

施設花卉　そ　の　他　4 万鉢

11 月～ 12 月 はシクラメンの出荷

1 月～　2 月 はアッツザクラ（ロードヒコキシス）のかぶ分けと植えかえの仕事でした。

一番勉強になりましたのは，経営のやり方，考え方などでした。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の研修計画より色々と勉強が出来て最高でした。

残念なことは色々な所へ見学をしたくて最後の自由な時間に行きたいと思っていましたけれども，時間がなくていけなかったことです。

7. 本邦での生活状況

私は長野県中野市で阿部光則様のお宅に配属されて，1年間の実習をやりました。

農家の方と一緒に作業をして覚えることでした。

ご夫婦と一緒に仕事をし，話し合ったり，毎日忙しい日ですが楽しかったです。

阿部様の加入している農業組合の講習会，視察などに参加させて頂き，色々と勉強になりました。

奥様とも一緒にビーチバレー，料理教室などに一緒に参加させて頂き，楽しかった。

鎮西様のお宅では 11 月からお世話になり，4 ケ月間シクラメン，その他の鉢物の栽培についての研修でした。

私の他，2人日本の実習生がおりました。その他，5人のおばさん達がおりました。シクラメンの出荷で忙しい毎日でしたけれども 1 月，2 月からはスキーに鎮西様と実習生，子供達と一緒になん回か行きました。

8. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

帰国前にもう少し自由な時間がほしいですね。1年半の研修ですからせめて 2 ～ 3 週間ぐらいは，自分で見学したい所とか旅行したい所もありますので，出来たらお願いしたいです。

9. 所　感

日本へ研修へ来てとても良い経験が出来ました。自分の生まれた国を外国から見て世界の中のブラ

ジルの農業の立場を考え，又，今後のブラジルの農業，特に私達農家がどの方向に進むべきか，とても良い勉強になりました。

ブラジルへ帰って日本で学んだ技術をそのままは使えないけれど，適応してやりたいと思っております。

ブラジルの農業はこれからです。一所懸命頑張りたいです。

日本の国際協力事業団，国際農業者交流協会，受入農家の皆様には大変お世話になりまして，本当にありがとうございました。

沢山良い思い出が出来まして，あたたかく受け入れてくれた日本に心から感謝致しております。ありがとうございました。

松　永　　旭

1. 研修機関　(1) 前期　高知園芸試験場
　　(2) 後期　高知県園芸試験場と高知県立農業高校
2. 研修期間　1987年4月～1988年9月
3. 研修職種　蔬菜園芸（土壌保全を主眼とする農業土木）

4. 当初の研修計画

(1) 私はパラグアイ日系農業協同組合に勤務しており，営農指導対策事業部の一員であります。現在移住地では，農作業に大型機械化が進むとともに，土壌侵食（エロージョン）の問題が次第に深刻化しつつあります。

従って，私の今回の目的は地力保全対策の技術を修得することであります。

又，経済的に地力保全対策事業に取り込める技術を修得することであります。

(2) 両親が生まれ育った祖国はマスコミや又父母や移住者の話でしかしらないので，日本国を自分の身体で触れて体験することと，日本の文化，日本語を修得することが，私の希望であります。

5. 研修概要

高知県園芸試験場と高知県立農業高校での研修中，先生方に研修面で良く指導していただき，又生活面でも非常に関心をもっていただいて，色々と高度な土壌保全を主眼とする農業土木技術を修得することが出来たであろうかと思います。

前期，後期研修内容は下記の通りです。

前期研修

(1) オクラの品種比較試験とせん度保持，及び栽培実習と実験実習

(2) ほうれん草の夏どり栽培方法の実習

(3) 農機具の実習

(4) 野菜に対する除草剤の試験作業の手伝い

(5) しょうがの貯蔵調査作業の手伝い

(6) 害虫の防除作業（散布）

(7) 温度計の記録方法の実習

(8) テンシオメータの設置と測定方法の実習

(9) 土壌分析：EC，pH，硝酸態窒素，アンモニア態窒素とリン酸実験実習

(10) 土壌保全植物の栽培法（冬作：イタリアンライグラスとエンバク）

(11) 一般土壌学の筆記と講義を受けました。

(12) 研修旅行

a．1988年2月24日から2月25日に1泊2日で室戸方面に土壌調査実習

b．1988年3月1日から3月2日に1泊2日で仁淀村方面に土壌調査実習

後期研修

(1) 土壌保全植物の栽培法（春作：コブトリソウとソルゴ）

(2) とうもろこしの播種，畝の改善，雄花除去と不稔についての試験

(3) 土壌水分測定法の実習，土壌分析：リン酸，硝酸態窒素，EC，pH，置換酸度と置換性加里

(4) ハウスの組み立てとビニール張り作業実習

(5) 浮うれんそうの夏どり栽培方法の実習

(6) オクラの品種比較試験とせん度保持，栽培実習と実験実習

(7) 高知県立農業高校での研修内容は次の通りです。

a．生徒と一緒に平板測量の講義と平板測量を応用した平面の測量実習を受けました。

b．レベル測量は特別講義で先生が一緒について教えてくれました。

高低差の求め方と野帳の書き方の講義を受けました。

レベル測量と平板測量を応用した等高線測量実習を受けました。

(8) 研修旅行

a．1988年8月23日から8月24日に1泊2日で足摺方面に土壌調査実習

b．1988年8月29日から8月30日に1泊2日で大正町方面に土壌調査実習

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の研修計画としては土壌保全を主眼とする農業土木でしたが，研修先が園芸試験場になりましたので，露地野菜研修が加わりました。現在，私の移住地では野菜生産は行なわれていないが，将来生産された時，ここで修得した技術を発展のために生かしたいと思います。又，露地野菜研修が入ったので目的とする土壌保全の研修時間は当初の計画より短かくなりました。

7. 合同研修会について

私にとって合同研修会はもっとも有意義だと思いました。

私は，研修先でなれない生活と環境のため色々不安を感じていましたが，合同研修会で他の研修生もそれぞれ同じ悩みをもっていることがわかりました。お互いに話し合う中で，不安も解消され，研修に対する気持も変わってきました。

こういった意味で，合同研修会が1回でもあったことは大変良かったと思います。

又，9月の合同研修会を実行しなかったことは残念でした。

今後，行なう価値があると思います。

8. 本邦での生活状況

日本での生活はやったこともない自炊生活，又，日本の風習，文化と社会制度などがパラグアイと違うことが多いので，初めの頃不安でした。その不安も試験場の皆様のご親切な励ましとご指導をいただくうちに，どこへやら消えていってしまい，自然に研修生活にとけ込んで行くことができました。

又，日本の生活，文化，風習及び進んだ経済などが体験出来て，有意義でした。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

(1) これからも可能な限り多くの研修生を受け入れて欲しい。

(2) 海外移住センターでの日本語の講習を可能な限り全員が受けられるようにして欲しい。

(3) 合同研修会は大変有意義なので1年に2回は実行して欲しい。

(4) 希望どおりの研修が出来る受入れ機関にして欲しい。

(5) 日本へ来る前に，日本語を勉強してきたほうが，日本での研修内容が充実すると思います。

10. 所　感

日頃からの念願がかなって昭和62年4月3日国際協力事業団第17回移住者子弟技術研修生の一員として来日し，日本で研修を受けることが出来ました。

日本に研修にくる前は農業協同組合に勤務しておりまして，現在は休職中ですが，帰国後は復職して日本で学んだことを将来母国及び移住地の発展のために生かし，農業技術者の一員としての役割を果たすために全力を尽くしたいと思います。

又，日本で学んだこと，経験したことによって人間としてさらに成長させて頂きました。

研修期間中，思いがけなく世界各国の人々と友達になれ，心の触れ合いができたことはかけがえのない思い出になりました。

最後に，色々な形でお世話になり，迷惑をかけ又，理解して頂いた，国際協力事業団及び国民休暇県局の皆様，やさしく指導して下さり，研修させて頂いた高知県園芸試験場，高知県立農業高校の皆様に心から感謝いたします。

藤　田　和　子

1. 研修機関　(1) 前期　和泉短期大学児童福祉科
　　(2) 後期　和泉短期大学児童福祉科
2. 研修期間　昭和62年4月～昭和63年9月
3. 研修職種　幼児教育

4. 当初の研修計画

移住地の幼稚園での経験を通して，実習だけではなく，理論を基礎とする必要性を感じ，これから先，子供たちを導いていくのに必要な基礎知識を身につけることが目的でした。

5. 研修概要

1年半，和泉短期大学にてボリビアの山内さんと共に2年生の前期まで日本の学生と一緒に学んできました。

講義の内容としては，基礎理論，実技の科目を習得しました。実技ではピアノ，音楽リズム，小児体育，絵画製作など現場ですぐに活用できることを学びました。

理論では保育原理，教育原理，児童心理学など，これらの科目を通して教育者，保育者としてのあり方や，子供とのかかわり方，子供の心身の発達を把握することの大切さなどを学ぶことができました。

短大では卒業するまでに，幼稚園，保育園と施設の実習をそれぞれ3週間します。1年目の11月に保育園実習と，今年6月には教育実習に行きました。

夏，春と長い休暇期間を利用して，担当の方や担任の先生のおかげで多くの園での見学や実習を体験できました。

9月に入ってからは，最後にできるだけ多くの園を見学することを希望し，いくつかの保育園，幼稚園を1～2日づつ見学実習しました。各園によって方針が違い，先生方はその園の目標をもとに熱心に教育，保育をされ，その姿に教えられることがたくさんありました。一斉保育をしている園の他，自由保育の形態の園を見学することができました。

当短大は，児童福祉科で，かなり福祉関係に重点をおいています。福祉について無知だったため，自分は幼児教育に関する科目だけを履修したいと思っていたのですが，福祉という人の幸せのために働くことの重要性に興味を持つことができました。見学や実習は休みの期間に多くの施設で体験できました。子供から大人の方たちを対象にした様々な施設があることを知り自分にとってとてもプラスになりました。これまで1年半の間，当初の予想以上に幅広く学ぶことができました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初はどのようになるか見当がつかなかったのですが，予想以上に短大では幅広く学ぶことができました。また，担当の方や担任の先生のおかげで多くの園の見学や実習ができました。

7. 合同研修会について

研修内容を報告することによってじっくり自分の研修について振り返り，反省，そして新たな目的意識をもつことのできる研修会でした。

8. 本邦での生活状況

1年半センターから通学し，センターでの生活は研修生の方たちと一緒であったため，ホッとできる場所でありました。センターの職員の方々にめんどうをみていただき，何かととても励みになり，心強かったです。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

言語の未熟さに随分と不自由しました。周囲は認めてくれますが，やはり自分なりにできる限り努力し，日本語をマスターしてこちらに来た方が良いと思います。

10. 所　感

予想していたように人が多く，落ち着きのなさを感じましたが人口の密集している場所と対照的に，田舎はのどかで山と周囲の緑で心身を休ませてくれる場所でした。また南米では見られない四季折々の自然が最高でした。

帰国後は，移住地の園に戻りたいと思います。教育者というのは，一生かかっても与え足りないことばかりだということを聞きます。これまでに学んできたことを基礎として，学び得た良いものを充分に生かしながら子供たちと触れ合っていく中で自分も勉強をしながら頑張っていきたいと思います。

大　原　智　江

1. 研修機関　(1) 前期　高知県果樹試験場，長野県果樹試験場
　　(2) 後期　高知県果樹試験場，高知県農林技術研究所
2. 研修期間　1987年4月～1988年9月
3. 研修職種　果樹（落葉果樹栽培）

4，5. 省　略

はじめに

1987年5月15日より1988年9月20日までの17カ月間，高知県果樹試験場落葉果樹科の技術研修生として，山崎科長をはじめ，木村研究員，堀内研究員に御指導いただき，果樹栽培の基礎知識や技術を習得しました。当初の研修計画としては，暖地リンゴの栽培法の研修希望でしたが，リンゴのみならず落葉果樹全般の栽培法および調査法等も研修しました。なかでも，剪定，接き木はたいへん勉強になり帰国後おおいに役立つと思いますが，袋かけ等の技術については栽培面積などの面から不可能ではないかと思います。しかし，現地でブドウを栽培している日本人農家では，こういった作業を行なっている人も見うけられ，今後，必要な技術ではないかと思われます。

このような技術とともに，現在，最先端技術として取り入れられている組織培養も少々でありますが習得し，また，栽培の第一条件である土壌についての知識，分析方法も習得しました。

これらの研修成果はきっとパラグアイの果樹栽培発展に寄与できるものと確信しています。

研修テーマは多岐にわたりましたが，ここで次の成果について簡単でありますが報告します。

A) リンゴわい性台木とブドウの整枝剪定について

B) 花粉親が新高ナシの受精及び果実肥大に及ぼす影響

C) ジベレリン処理による新高ナシの果実肥大と果頂部裂果の発生

なお，このレポート作成に協力してくださり他の技術修得のために御指導くださった木村和彦研究員に心から感謝いたします。

研修テーマ

A) リンゴわい性台木とブドウの整枝剪定について

果樹の剪定はそれぞれの果樹で，古い産地であればあるほど農家の長年の観察によって生まれた技法もあるため簡単に覚えられないと思います。しかし，基本は理論的にわかっていればのみこみやすく，自分が剪定に対する考え方をはっきりさせ，一定の方針にしたがって行なうことが必要です。

整枝剪定は総合された技術のなかでの一分野であり，受粉，摘果，土作り，薬剤散布などと関連が深いわけです。たとえば，樹冠内部まで日光が当たらない場合，整枝剪定によって光線が入るようにします。また，整枝剪定は樹体の栄養に影響するため施肥との両作用を考えなくてはならず，強めに剪定したときと弱く剪定したときと同じ量の肥料をやる必要はありません。剪定は隔年結果を防ぐためであり，摘果の目的と同じで高品質果実生産をするには両者は常にうまく組み合わせて実施する必要があります。自然にできあがる樹形を尊重して，作業性の都合がよいように持っていくことが大事で，直立する品種を寝かせると強く徒長枝ができ，元の樹形に戻ろうとする働きがあり，又，開帳性のものを直立させるのは難しいものなのです。

現在考えられている樹形はこれらの自然を尊重して考案されたもので整枝に当たってはこれらのことを考慮することが必要なのです。いままで自然を尊重するために行なわれている剪定では，一般に樹高が高くなり作業能率が低下するので最近ではワイ性台木を利用して，樹高をできるだけ工夫して低くし，側枝配置に当たって立ち木仕立ての果樹では水平方向とし，下垂している枝を利活用する方法が考えられています。

整枝剪定では，目標樹形を手本とするのはいいが，果実を支える骨組みをつくることや，幼木時に主枝をわける位置，角度などの基本をまちがいなく行なうことが大切です。樹形をつくると同時に結果調整，樹勢の調整も目的とするので樹によって切り方が異なり，決まった形にはめ込んで切ることは危険です。樹の強弱と剪定の強弱を使い分ける必要があります。又，切り方によって害になることもあります。とくに強剪定の害作用は弱剪定よりも多いのです。強剪定をすることによって，葉面積の絶対量が減ったり大枝をぬくことによって傷口から腐敗菌が侵入して，樹の寿命を短くすることもあります。整枝剪定は，多くの効果を出し，害を少なくするように考えることが必要です。

1. リンゴわい性台木の整枝剪定について

(1) リンゴの樹形

現在のリンゴ栽培は台木によって三つに大別される。

1) マルバカイドウや実生を使用した大樹疎植栽培。（開心形）

2) 近年，取り入れられている，わい性台使用の小樹高密植栽培。（スレンダースピンドルブッシ

ュ：細型紡錘形）

3）ニュージーランドで試験されている半わい性台使用の小樹密植栽培。（主幹形ピラミッド仕立て）

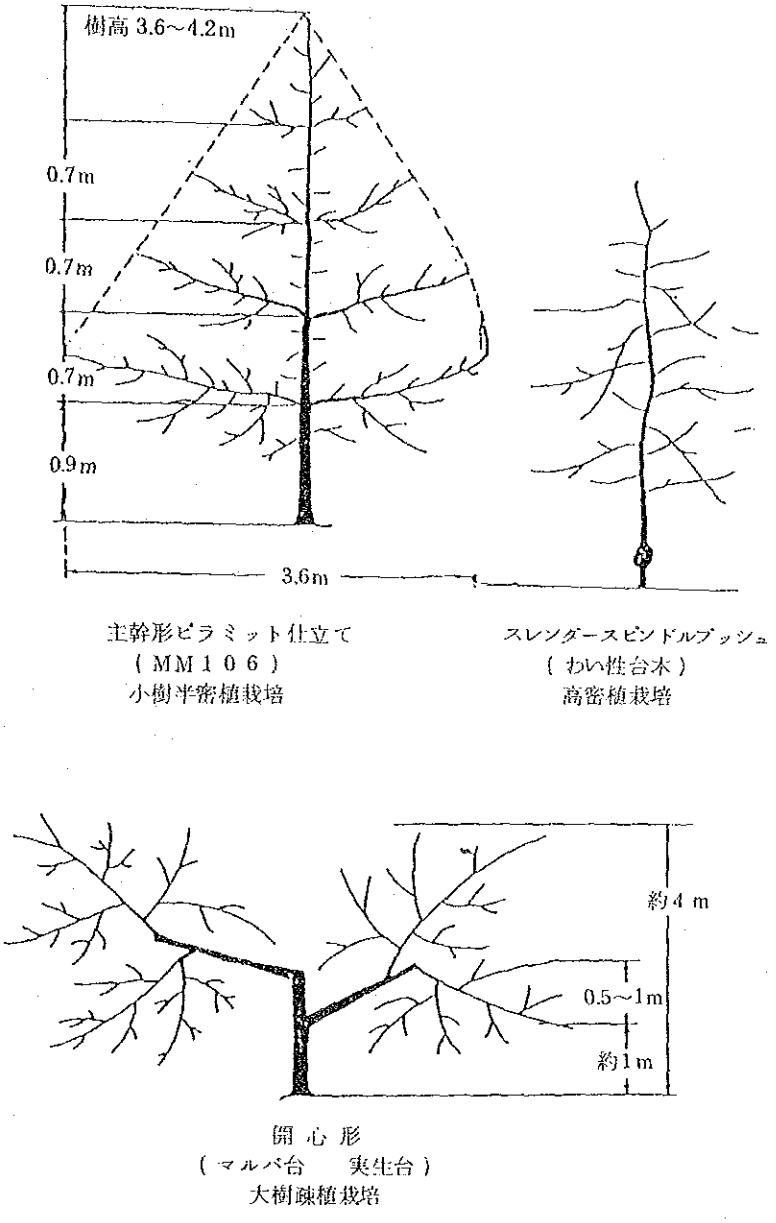


図1　リンゴの基本樹形

★ スレンダースピンドルブッシュ

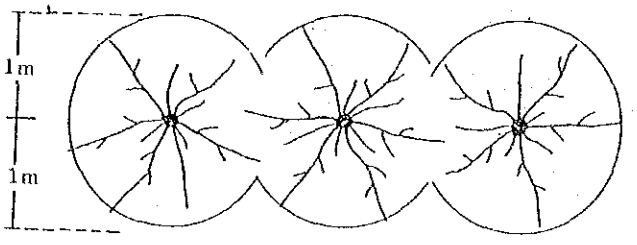
◎ ねらいと樹形

1) 台木はM9，M26が主体で高密植にして樹高は3メートル。

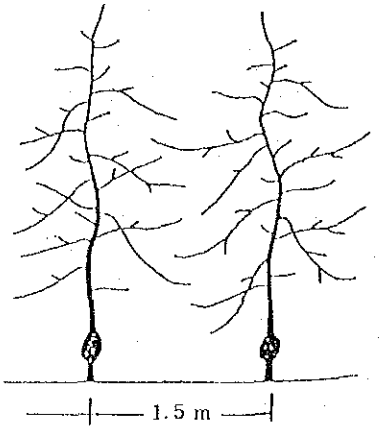
2) 主幹にはつりあいのとれた，水平を基準とした古い側枝を主体に新しい側枝をまんべんなく着生させる。

3) 地上，50cm以下には側枝を残さず，円形の輪を1／4程重ねた形にする。

一定のスペースを有効に利用するため，太い側枝をつくらず細い側枝をまんべんなくつける。



平面図



側面図

◎ 仕立て方

1年目

副梢の発生程度によって切り方が違うが標準の苗丈が15m程度の場合には，地上90cm～100cmの位置で切り返し，50cm以下の副梢，角度の狭い副梢(45°以下)，主幹と同じ太さの副梢は切り落とす。なるべく弱めで，発生角度の広い副梢は残し，原則として副梢の先端を切らずに結実をはかる。

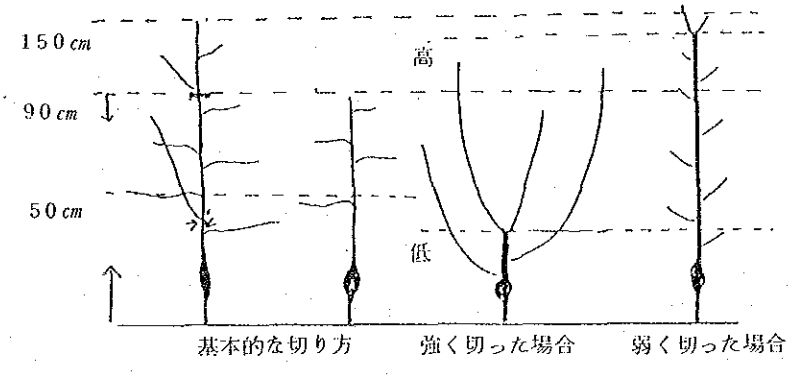


図3　1年苗の切り返し位置とパターン

2年目

主幹に競合する枝，または，側枝から出ている強い枝を抜き，残された枝は原則として先刈を加えず水平に誘引して花芽の着生を促す。

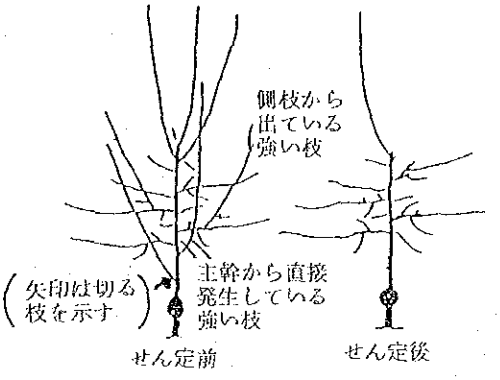


図4　2年目の状態

3年目

3年目になると誘引された枝には，花芽が着いてくる。2年目と同様，強く出た側枝を切る以外はそのままにしておく。この強く出た枝を元から切らず2～3cm残して枝を再発させる場合があるが，品種によって同じく強く出る樹もある。又，上部に枝が多い場合は切り除け，主幹の弱まりを防ぐと共に下部にまんべんなく側枝をつける。

先刈はなるべく加えない様がよいが，「つがる」のように花芽の結実が悪い場合は先端を弱く切って次年度の花芽形成を促す方がよい。但し，先刈を加えすぎると着葉が多くなり日陰を作って他の花芽の結実を妨げることがあるので，バランスのよい配枝を心がける。

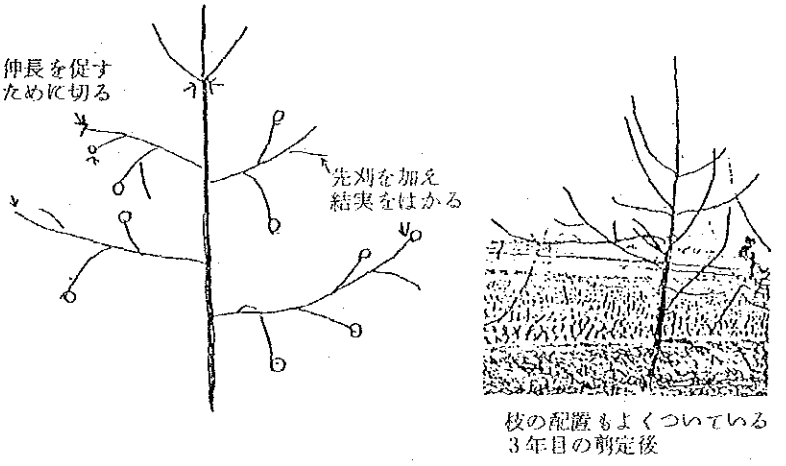


図5　先刈の加え方とよい枝の配置

4年目以降

本格的に着果し始め，水平誘引した側枝が下部に多くなるに連れピラミッド形に似てくる。このころになると側枝が多くなるため日陰を作り，結実の妨げになったり，主幹が衰弱してくるためバランスを考えながら切り返す。枝が重なりあったり，交差したり，極端に下垂した枝を切り戻す。又，弱った枝には成長を促すため先刈をする。極端に切ると収量，樹のバランスをくずすため着果させ次年に切ることも考えられる。原則として先刈は加えない。

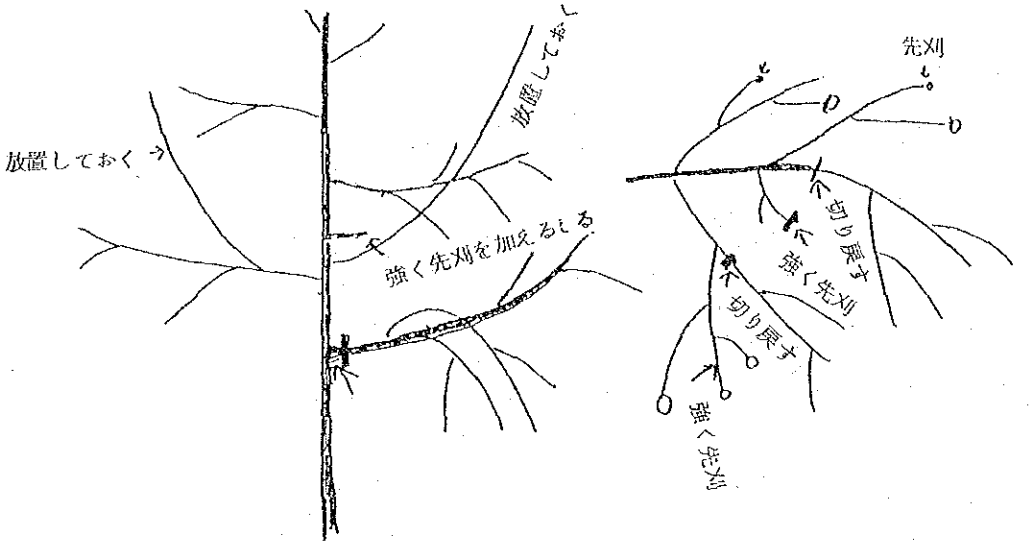


図6　側枝を切り戻す場合

その他

側枝の誘引は，重要な管理で春と秋に行なう。春の誘引は2年枝を，秋の誘引は成長の止まった1年枝を行なう。

★　主幹形ピラミッド仕立て

◎　ねらい

1）半わい性台のMM106を利用する。

2）並木植えとして樹間隔および列間隔をせばめる。

3）樹高は3.6～4.2 mにおさめる。

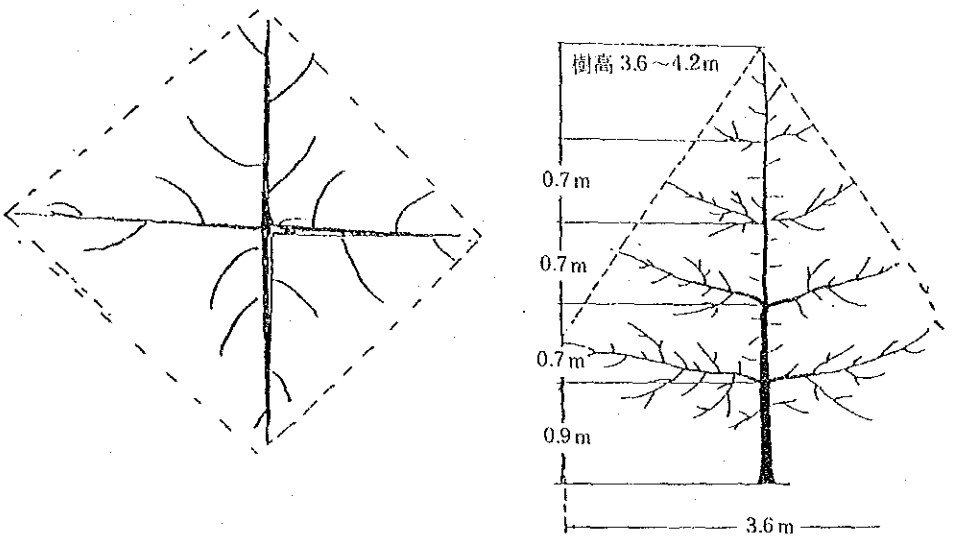
4）樹形の基本として，地上90 cmのところに第一段目の主枝4本を十文字となるよう残す。（図7）

◎　仕立て方

1）2段，3段，4段も同じところから車枝に4本の主枝を出し，一段目主枝からの間隔は

70 cm 前後を基準とする。（品種や土壌によって変わる）

2）樹全体の形はピラミッド型になる。



平　面　図　　側　面　図

図 7　主幹形ピラミッド型の主枝の配置

2.　ブドウの整枝剪定

(1)　ブドウの樹形

日本でのブドウ栽培は，棚仕立てが用いられている。その棚仕立て栽培は 2 つの仕立て方に分けられる。

1）長梢剪定：2～4 本の主枝に亜主枝，側枝を出させる。

2）短梢剪定：主枝を直線にして 1～2 芽着けた結果母枝を毎年出させる。

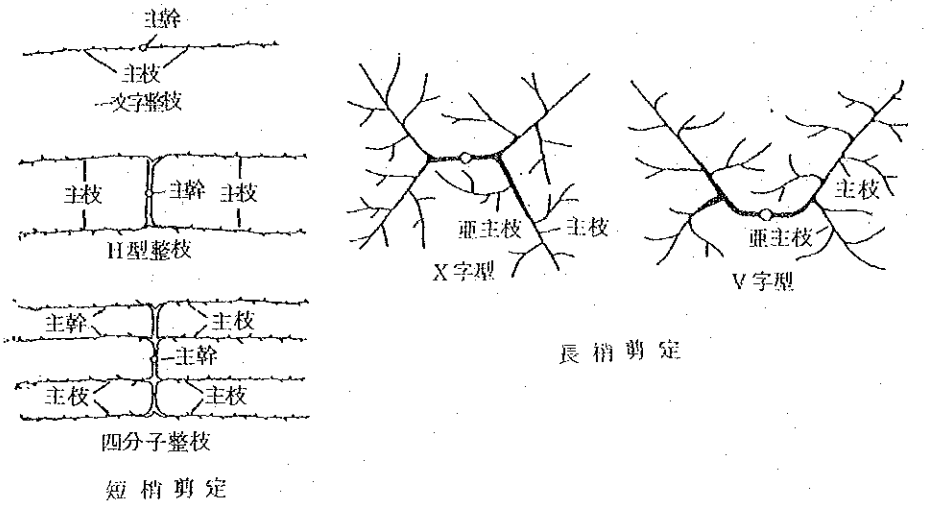
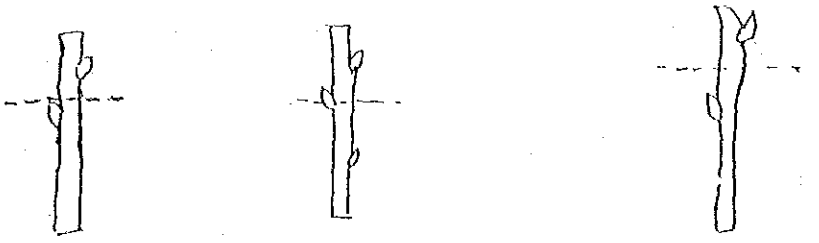


図1　長梢剪定と短梢剪定の違い

表1　長梢剪定と短梢剪定の長所と短所

	長　　所	短　　所
長梢剪定	1) 棚面に結果母枝を自由に配置させることができる。 2) 樹勢の調整ができるためそろった結果母枝が出て優良な品質がとれる。 3) 樹が早く太るため早期生産が可能。 4) 果房が揃って大きい。 5) 樹齢が長い。	1) 自由に切るので負け枝が出易い。 2) 摘房を丁寧にやらないと結果過多になりやすい。 3) 枯れ込みが入りやすい。
短梢剪定	1) 棚面を均等に利用できる。 2) 機械的に作業ができる。 3) 剪定で調整できるため結果過多にならない。	1) 枯れ枝が出た場合，他の枝をもってこれない。 2) 強剪定になる。 3) 花震いがしやすい。 4) 結果母枝を結ぶところが少ないため新梢が折れ易い。

★ 長梢剪定



×（悪）
芽が乾いたり
枯れ込む場合が多い

○（良い）
残す芽の１つ先で切る

○（良い）
中間で切る

図１　枝の切りかた

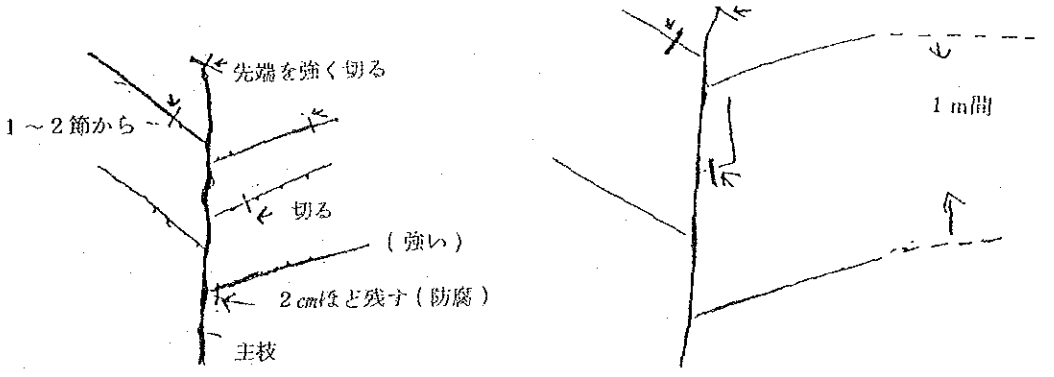


図２　主枝の切り方

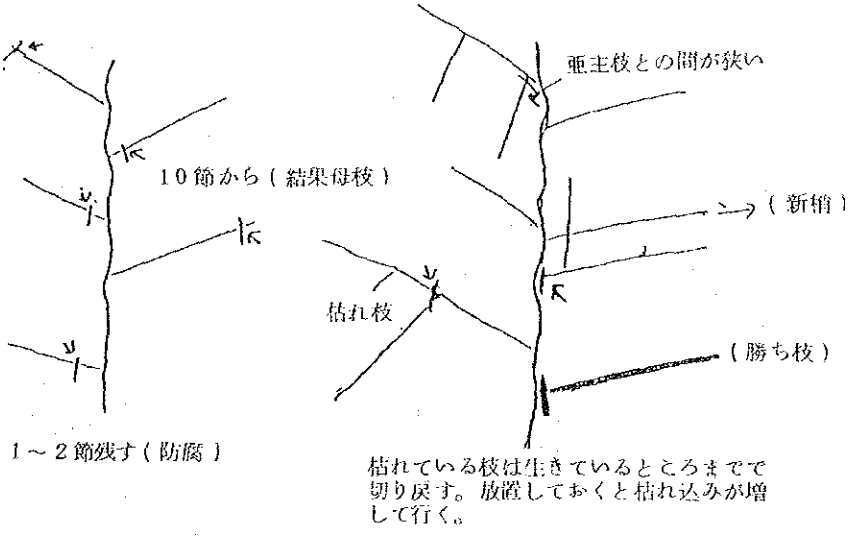


図３　側枝の切り方

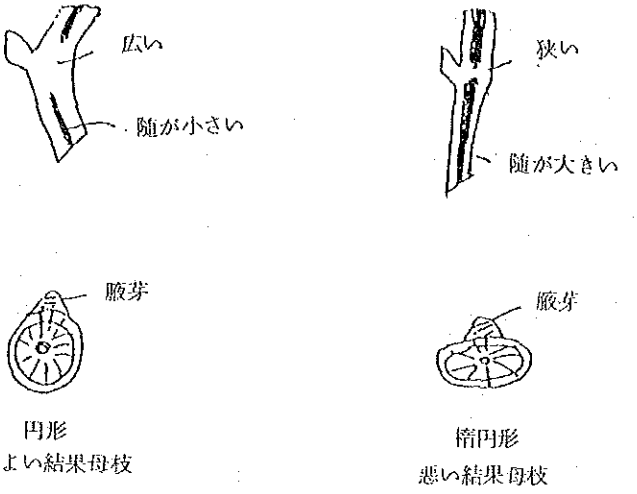


図4　結果母枝の選択

◎　年別による長梢剪定の方法

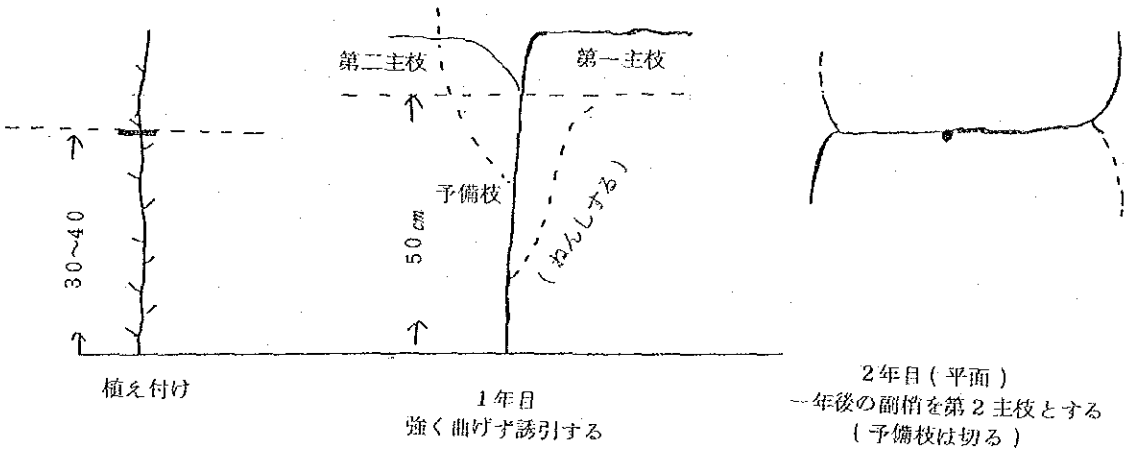


図5　1～2年目

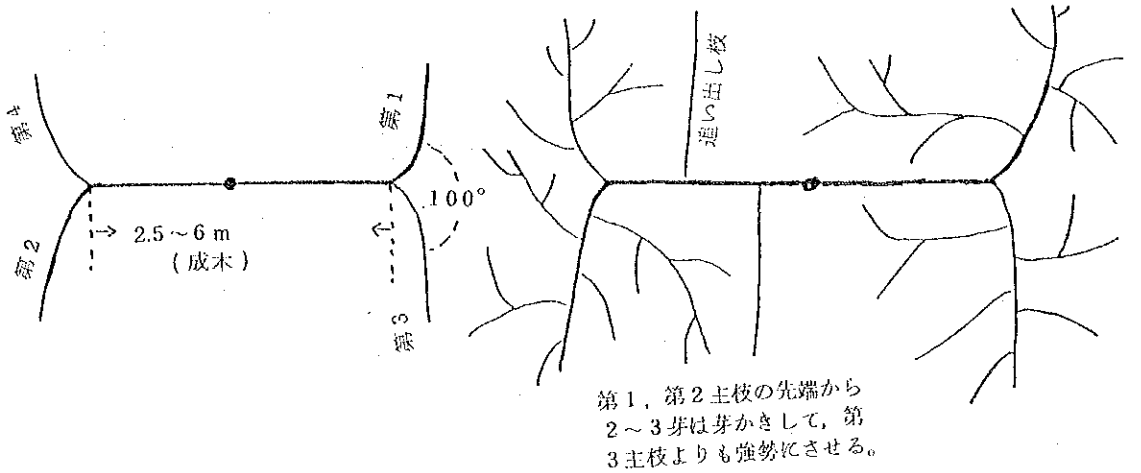


図6　3～4年目

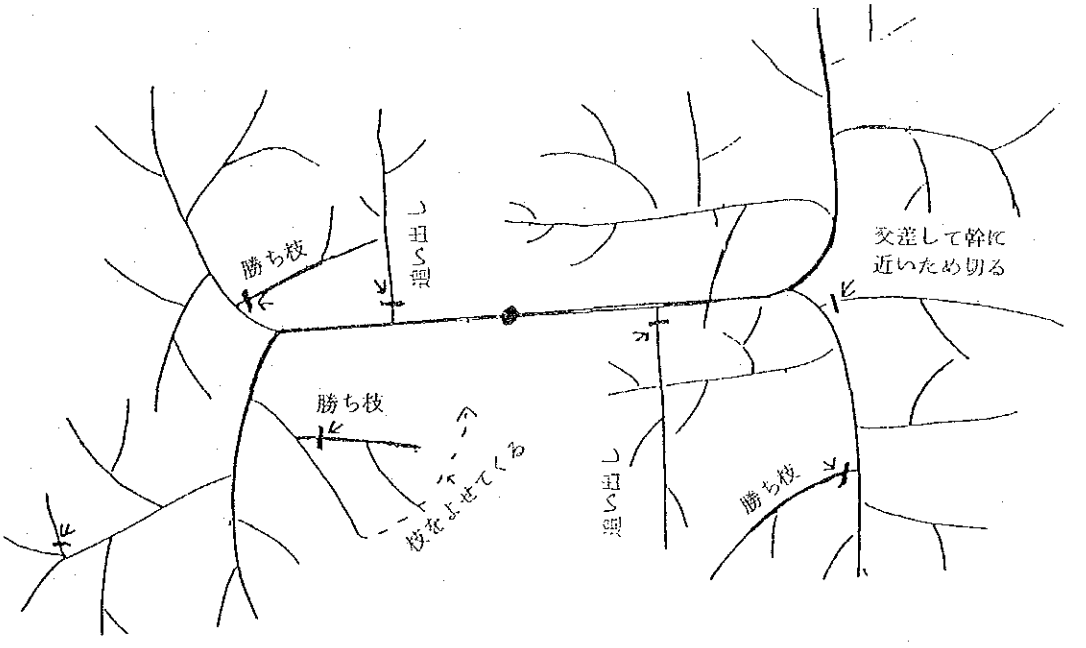


図7　5年目～完成樹

主枝は樹勢力の差が交互に着くように調整。亜主枝は3～4本付け側枝とも左右交互に配置させる。又，この時期になるとあまり先端が延びなくなる。すると，幹に近い亜主枝は，主枝の主幹よりおおきく，側枝は亜主枝より負け枝になるため強い枝は切り，空間になった所へ任かの枝

を持ってきて埋める。主枝，亜主枝が7対3の割合がよい。

＜参考文献＞

1. 原田良平：落葉果樹の整枝剪定の基礎技術
2. 竹前四郎：リンゴの整枝剪定
3. 小池洋男：栽植密度・樹形構成
4. 青木幹男：ブドウの整枝剪定

B）花粉親が新高ナシの受精及び果実肥大に及ぼす影響

はじめに　新高の受粉用花粉親としては，従来から，長十郎，新世紀，馬次郎，八達，幸水，豊水などが使用されているが，他県の資料では豊水は受粉用花粉親として入っていない。この点を含め新高ナシの受粉用花粉親について再検討を行なった。

方　法　開花1～2日前の3・4番花のつぼみをピンセットで除雄し他の花粉が入らないようにパラフィン袋でつつみ開花期頃（2～3日後：満開4月9日）に花粉親別に受粉し再び同袋で包んだ。

供試花粉

長十郎
新世紀
馬次郎　　×各20花房処理
八　達
豊　水
おさ20世紀

調　査　花粉親別のセット率

花粉親別の果実肥大

結　果　花粉親別のセット率（表1）は豊水を除き他の花粉では80％以上になり従来と同じ結果となったが豊水は45％と低かった。

果実肥大（図1）については細胞分裂期，第一期肥大期までは殆とんど差がなかったが第二期肥大期になると差が出始め，八達＞馬次郎＞おさ20世紀＞長十郎＞新世紀＞豊水の順であった。

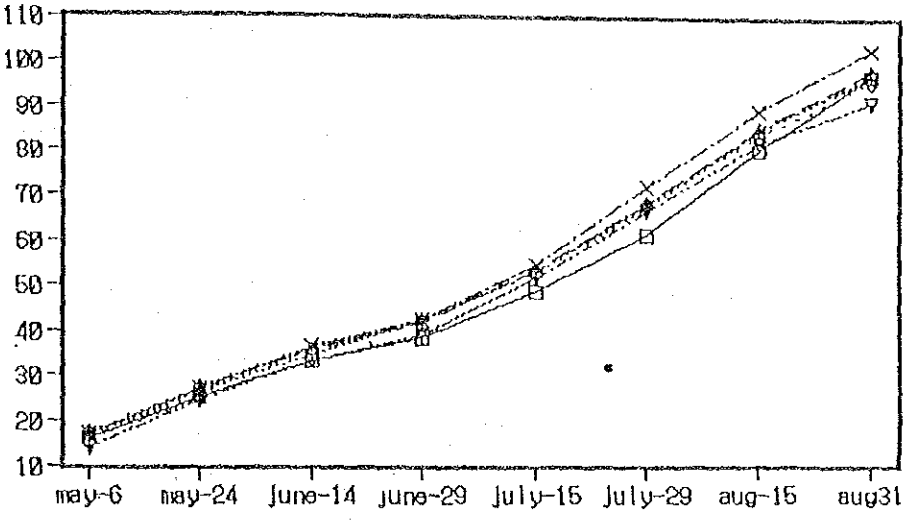
表1　花粉親別の新高ナシのセット率

（1988：木村・大原）

	セット率（%）
おさ20世紀	95
長十郎	95
新世紀	90
馬次郎	80
八達	80
豊水	45

図1　花粉親別の新高ナシの肥大（横径）

（1988：木村・大原）



□おさ20世紀　＋長十郎　◇新世紀　△馬次郎　×八達　▽豊水

結　論　豊水を除く他の花粉は，セット率，果実肥大では大きな差がなく実用上問題がなく利用可能であるが，豊水はセット率の点で問題があり実用不可能と思われる。

また，山崎が行なった新高ナシの人工受粉と品質（1974～1976）の中で花粉発芽率，花粉量において八達，新世紀，幸水がよく，果実重についても八達，新世紀，長十郎がよいことから豊水を除く花粉親で結実安定ができる。その中で，八達は良好である。

注）おさ20世紀はナシの中で唯一の自和和合性のある品種である。開花は新高より少し遅く，今回例外的に試みてみたがセット率，果実肥大では問題はなかったが変形が多かった。

C) ジベレリン処理による新高ナシの果実肥大と果頂部裂果の発生

はじめに　新高ナシはナシ類の中で最も肥大がよく甘味もよいことから高級果実としておもに贈答品として用いられている。とくに大きな果実は高価で売れることから大きな果実の生産が望まれている。しかし，大果は果頂部の裂果などの生理障害が発生しやすい。

そこで，果実肥大促進効果を持つホルモン剤のジベレリンを用いて果実肥大に及ぼす影響とそれにともなう果頂部裂果について検討した。

方　法　受粉後30日目（5月9日）に各種ジベレリンをTween 20数滴を加え溶かし3,000 ppmとし3番果に噴霧処理をした。

供試ジベレリン	各区20果処理
GA3+4	（GA3　90%・GA4　10%）
GA3	
GA4	
GAテープ	（GA3　90%・GA4　10%）
無　処　理	

果実肥大は定期的に測定した。

果頂部裂果の発生度は以下の指標で行なった。

発生状況	指数
果頂部に亀裂の線が少しある（商品性あり）	1
〃　ある	3
〃　に割れがある	5

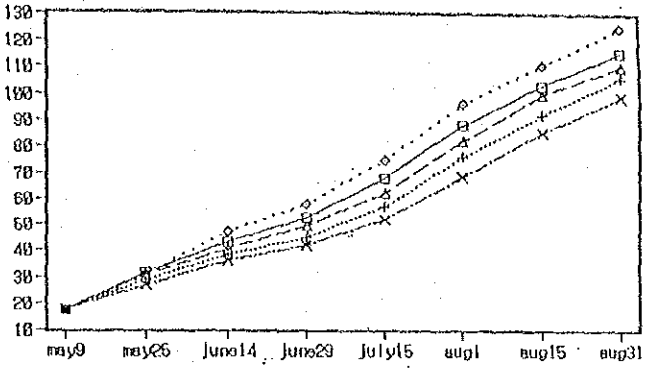
$$発生度 = \frac{1 \times 個数 + 3 \times 個数 + 5 \times 個数}{5 \times 調査全個数}$$

結　果　新高ナシの果実肥大に及ぼすジベレリンの影響はGA4＞GA3+4＞GAテープ＞GA3，無処理となり，GA4が効果が高かった。また，果頂部の割れは横径の大きい果実が発生率，発生度が高かった。しかし，GAテープは横径が大きい割には発生率，発生度が低かった。

結　論　新高ナシの肥大においてはGA4単独の方が肥大に及ぼす影響が大きかったが，果頂部裂果の発生が多く問題があった。現在，実用化されているGAペーストと同成分を持つGAテープは果実肥大および果頂部裂果の発生が少なかった。この同成分であるGA3+4を噴霧処理した場合，果実肥大は良好ではあるが果頂部裂果が多くなった原因についてはっきりしないが，ジベレリンの薬効パターンが違っていると思われる。

ジベレリンの種類別の果実肥大（横径）

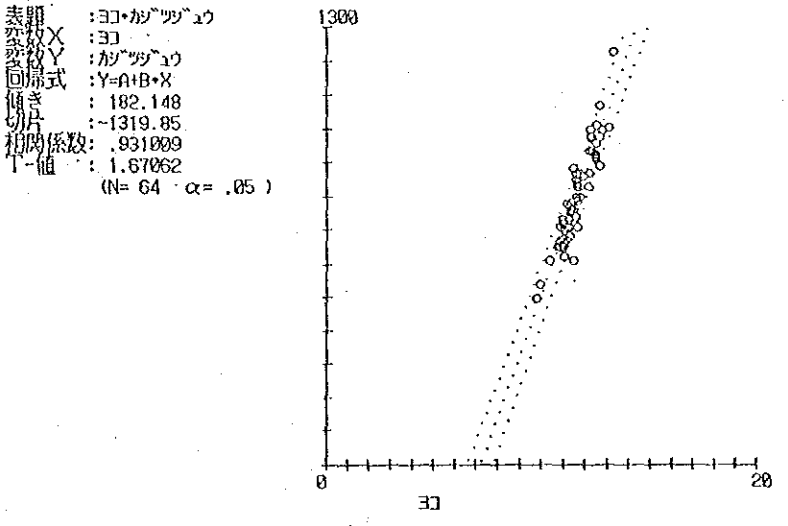
（1988：木村・大原）



□ＧＡ３+４　＋ＧＡ３　◇ＧＡ４　△ＧＡテープ　×ＣＯＮＴ

ジベレリンの種類別の果頂部裂果

	果頂割れ発生率	発生度	横径（ＡＵＧ３１）
ＧＡ３+４	８０	４４	１１.６ cm
ＧＡ３	５６	２９	１０.６
ＧＡ４	６０	４８	１２.５
ＧＡテープ	２０	８	１１.１
ＣＯＮＴ	０	０	９.９



新高ナシの横径と果実重の関係（１９８６）

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の計画と比較して，多少，変更されたところもありましたが，その分，計画に入っていない技術を習得できました。とくに，長野県果樹試験場での１ケ月間の研修ではあらゆる技術とともに，講義にも出席させていただきました。また，１週間でしたが高知県農林技術研究所での土壌分析もよい勉強になりました。

研修期間中多数のご迷惑とともにお世話になりました高知県果樹試験場場長，同研究員，同技能員一同，そして，長野県果樹試験場，高知県農林技術研究所のみなさまに深く感謝の意を表します。

7. 合同研修会について

合同研修会は前回生まで３回，行なっていたようですが今年度，１７回生は２回になりました。

この研修回は今後とも，来日６カ月後，１２カ月後，そして帰国前に行なっていただきたいと思います。それは，とくに来日してから半年間は悩みが多い時期であります。たとえば，当初の研修計画とまったく違ったり，あるいは，生活習慣の違いから，生活，研修が充実できない日々があることは，その日々がむだになります。それらを話し合い，解決するためには研修会が必要だと思います。

私も６カ月目の合同研修会があったなら，いっそう充実した研修生活ができ，修得も深かったと思います。

8. 本邦での生活状況

生活状況に関しては全く問題ありませんでした。来高した当時は，アパートでしたが５カ月後一軒家にすみ，家主の人情と研修先で勤務している皆様の親切を賜り，心楽しい１８カ月をおくりました。又，あらゆる交流会で留学生，滞在外国人などと接する機会が多かったため，それぞれの国の習慣を学ぶことができました。親戚が少なかった分，周辺の皆様，とくに家主の方のお心配りは一生忘れてはならないと思っています。

9. 今後の子弟研修生制度に対する提言及び要望事項

特にありませんが強いていえば研修先を選択する際，研修生の目的を十分にご理解いただくと共に，希望する研修先がある場合にはその希望をできるだけかなえていただくようなご配慮をお願いしたいと思います。また，事前に，ＪＩＣＡから研修生へ研修先のパンフレット等を送っていただくことによって，どのような所かを確認しておくと研修先へ行く前，行った後の不安が少ないため，良好な研修ができ，両親が心配することも少ないのではないかと思います。

10. 所感

私にとって日本といえば祖国に当たり，両親たちにとって母国であるため，両親は子供たちも日本の文化（言葉，風習）で育てようとしたが，子供たちは学校へ行きパラグアイの友人が増すに連れて，地元の習慣になじんできます。

南アメリカ大陸にある国は，ヨーロッパ大陸の植民から歴史が始まった国で，多国から移住して成

立ち，特に西洋人がおおい多民族であるため国々の風習が混合して，今日の南米の風習ができたのです。もし，日本人種がもっと多ければ日本の風習も混じったことでしょう。

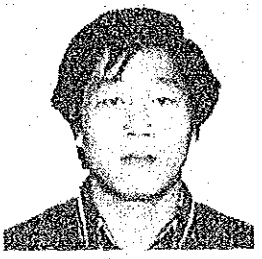
日本という国は，大昔からの同一人種であるため独特の文化があり，又，その中で地方別に違った文化（風習，言葉（方言））があるのに驚きます。そうした伝統をなお受け継いで自然（四季）とともに生きている日本は素らしいと思います。島国でありながら小さな大陸かも知れません。

外国で生まれた純日本人であるため，早く驚じめましたが来日するまでこれほど歴史の残った国だとは想像できませんでした。日本人でありながら，母国はパラグアイなのです。両親の国を一目みたいと思っていたとき，日本の国際協力事業団の子弟技術研修生として来日させていただきました。

祖国であり，世界の5指にはいる文明国である日本で勉強でき，直接，日本にいる日本人と接し，なぜ急速に文明化したのかちょっぴりわかったような気がします。

日本で身につけた技術を，今後，発展途上国である母国のために，役立てられるよう希望します。

山　脇　厚　二



1. 研修機関　(1) 前期　株式会社鈴江農機製作所
   (2) 後期　　同　上
2. 研修期間　昭和62年4月～昭和63年9月
3. 研修職種　農業機械

4. 当初の研修計画

先進国である日本の農業機械の修理技術を勉強し，あわせて農業経営の方法についても学びたいと考えていました。

5. 研修概要

組立工場と溶接工場での実習が主体だった。

1. トラクターの構造と機能

分類，エンジン動力，伝達装置，操縦装置，制動装置，作業機装置，油圧装置，自動制御及び作業機

2. 耕うん機構造と機能

エンジン動力伝達装置耕うん部

3. 収穫機の構造と機能

エンジン前処理装置，刈取装置，脱穀装置，排わら処理自動制御，走行装置

4. 燃料と潤滑油

5. 整備基準と整備要領

日常点検と定期点検整備

6. 整備用器具と計測用機器

7. 農機工場での生産方法

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

私は農業機械修理技術に関しわからない事が多くあり，研修計画も立てていました。18ケ月という短い研修期間ではありましたが色々な事を学ぶことができたと思っております。

農業機械についてパラグアイと日本のスケールのちがいには驚きました。しかし日本はなんと技術の進んだ国かと思い知らされました。

7. 合同研修会について

私達研修生にとっては6ケ月に1回の合同研修会が一番の楽しみです。昨年9月の合同研修会が中止になったことは残念な事でした。出来れば度々行って欲しいと思います。

8. 本邦での生活状況

日本に来た時は漢字の読み書きが十分できないしそれに生活習慣など色々と不安な事がありましたが，研修先の方々は皆親切で，色々な事をおしえてもらい又色々な事を学ぶことが出来ました。

鈴江農機は今まで多くの国から研修生を受け入れているため私達の事を良く理解してくれており，楽しい生活を送ることが出来ました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

研修生の受け入れを4月からでなく3月初めにして欲しいと思います。4月より始まる日本の学校制度に合わせ研修生全員が合同研修会に出席，日本語講習等を受けた後各研修先に行けるようにして欲しいと思います。

10. 所感

私は昨年4月に国際協力事業団移住者子弟研修生として日本に来る事が出きました。この1年半の間に日本で学んだ事，見た事をパラグアイに帰国してから生かしていけるかわかりませんが，出きるだけ努力をしてみたいと思っています。

高　橋　家　久

1. 研修機関　(1) 前期　岡山大学農学部花卉研究室
　　(2) 後期　農林水産省種苗管理センター（群馬県）
2. 研修期間　1987年4月～1988年9月
3. 研修職種　花卉栽培，バイオテクノロジー，馬鈴しょ採種技術

4. 当初の研修計画

花卉栽培技術，特に育苗に関する新技術，バレイショの種いも生産に関する技術でした。これを前期と後期にわけて，前期の1年間は岡山大学で，そして後期は群馬県にある種苗管理センターで研修を行なった。

5. 研修概要

前期は岡山大学で花卉栽培について研修を受けました。その花卉類としてキク，カーネーション，宿根カスミ草，スイートピー，ガーベラ，フリージャ，ネリネ，ミヤコワスレ，シロクジャク，ポインセチア，カランコエでした。これらの植物の調査項目として催芽と播種，種子の冷蔵処理，生育中の管理，施肥，病害虫防除法，生態，育苗，それぞれの植物にあった作型などの実験などを行いました。

また，園芸作物学会などに参加させていただき，現在日本でどのような実験発表がされているかが知れて良かったと思っています。

後期は群馬県の農水省種苗管理センターでバレイショに関する技術を学び大変勉強になりました。ここではバレイショの採種技術として，バイオテクノロジーを用いて得た植物のウイルス検定，マイクロチューバの形成，さし木法を用いた増殖，また種イモ生産時の問題点などについて学びました。

バレイショに関しての成果としてかなりの技術が身に付いたと思っています。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

岡山大学での研修は実際にやってみたところ，思っていたように修了できました。これは先生がアルゼンチンの状況を良く知っておられそれに合った実験をやらせてもらったからだと思います。

後期の研修を望みどおり行えてとても良かったです。後期の場合私にとっては少し短かったです。実験のデータを最後まで取れなかったのが残念です。

7. 合同研修会について

私達にとって合同研修会というのはとても大事な事だと思います。皆がどのように研修しているか，また，こまった事があった場合どのように解決しているかなどを話すのにもっとも良い機会だと思います。

合同研修会はかならず行うべきだと思います。

8. 本邦での生活状況

大学での生活でしたので比較的スムースに，楽しい生活をおくりました。初めの頃は少しとまどいがありましたが，月日がたつにつれ友達も出来，私も日本になじむ事が出来ました。

後期の研修所での生活も楽しく過ごしました。ここでは家庭を持った職員の方との付き合いが多く日本の家庭の生活というのを知ることができて良かったです。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

私はこの仕事を始めてから子弟研修制度というのを知り大変お世話になり，素晴らしい体験をさせてもらいました。

私達，日系人にとっては日本で何かを学ぶのが最高の夢ですので，この制度の輪を広げていただき多くの人にこの様な体験をしてもらいたいです。

10. 所感

1年半の研修を終えてみれば，長いようで早かった研修期間でした。この期間中楽しい事や辛い事がたくさんありました。

日本で学んだ多くの事を帰国後アルゼンチンの農業のため，または日系人の発展のためにもこの技術を広く利用しおおいに生かしたいと思っています。

このような素晴らしい体験をさせてくださった国際協力事業団の皆様，そして研修先で大変お世話になりました岡山大学の花卉研究室の皆様，農林水産省種苗管理センターの皆様に対して心から感謝の意を表します。

米　アナ　エリサ

1. 研修機関　(1) 前期　山形県立園芸試験場
　　(2) 後期　株式会社中島天香園
2. 研修期間　昭和62年4月～昭和63年9月
3. 研修職種　蔬菜（農業技術関係）

4. 当初の研修計画

イチゴの苗生産と組織培養

私の家，または近所の人々がイチゴの苗生産を行っているが，色々な問題点があり，その問題を解決するためにはどのような方法があるかを検討する。

アルゼンチン国のイチゴ苗は現在ウイルスによる被害が大きい。イチゴ苗の品質を向上させ効率良く増殖させるためには茎頂培養が有効である。

そこで私は，組織培養の技術を修得するためにJICAの協力を得て，日本に研修に来た。

5. 研修概要

山形県立園芸試験場でイチゴの培養を行っているので研修することができ，先進技術開発研究室で1年間お世話になった。

残りの6カ月は果樹苗木の生産販売を行っている中島天香園でお世話になった。

イチゴについては，茎頂培養を始め，ポット植え，順化，増殖と農協または農業改良普及場にウイルスフリー苗が配布されるまでの一般管理を学んだ。またイチゴの茎頂培養による育成した苗がウイルスを保毒してないか確認し，健全な苗を確保するためのウイルス検定を学んだ。

その場合の方法はウイルス（Mottle virus, Vein Banding virus, Mild yellow edge virus）が発現する指標植物（EMC, UC−1, Virginiana）を使った。ウイルスを保毒している場合，接ぎ木後1〜2カ月で新葉やランナーに病徴が現れる。

そのほかに試験場では，色々な作物の茎頂培養および増殖培養，また，オウトウの台木であるアオバザクラの葉を材料としてカルスからの植物体を再生させる方法を学んだ。

中島天香園では果樹の苗生産と組織培養を学んだ。果樹の茎頂培養，継代培養，ポット植え，苗木の定植，苗木生産の一連の作業および苗木園の除草などを行った。

果樹苗木にウイルス（CLSV, SGV, リンゴモザイク病, etc）などが発生しているかを調べるためのElisa検定を学んだ。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

最初の目的はイチゴの組織培養と苗生産の技術を学ぶことだった。だが，培養は出来たけど苗生産の方法はアルゼンチンと日本は違ったので残念ながら勉強することができなかった。1年後に研修先が変わったことにより内容がイチゴから果樹にかわり，果樹の培養，苗木生産の技術を学んだ。

7. 合同研修会について

日本全国にいる研修生達と会う機会があまりないので合同研修会が一番楽しみだった。

同期の中で，研修を楽しくやっている人，また苦労している人と様々いた。皆で1年間何があったかを話し合ったり，笑ったり，怒ったりして，短い1週間だったけどとても楽しかった。その後，元気一杯研修先にもどった。

しかし9月に合同研修会がなかったのが残念だった。

8. 本邦での生活状況

最初の9カ月間は山形県大江町に住む兄の家でお世話になった。冬の寒さが厳しくなり，通勤が不便だったので2月からアパートで暮らすことになった。水道が凍結して困ったり，初めて雪掃きをした。一人暮らしを始めたが最初は日本の食事が殆どんど出来なかったので本を見ながら作ったり，友達に教えてもらったりして作った。

9. 所感

ア国にもどってからの計画は父と色々立てていたが，不幸があったので，今後のことは帰るまで，まだわからない。

しかし，もし培養を続けるのが可能であれば，日本で学んだことをもう一度アルゼンチンでやりたいと思っています。

山　内　智　子

1. 研修機関　(1) 前期　和泉短期大学児童福祉科
   (2) 後期　同　上
2. 研修期間　1987年4月～1988年9月
3. 研修職種　幼児教育

4. 当初の研修計画

保育者としての基礎を身につけ，子どもが精神的にも身体的にも健全に成長できるように手助けできるようになること。

幼児期に必要な歌，絵画製作，小児体育などを自分自身でしっかり身につけ，指導できるようになること。

5. 研修概要

和泉短期大学児童福祉科にて，日本人学生と同じ課程で1年半学びました。

学ぶべきことはたくさんあるけれど，時間的に少ないため広く，浅くという科目が多かったようです。しかし，児童福祉科ということでいろいろな理由で養護を必要とする児童についての学びも多く，幼稚園対象児だけでなく，いろいろな観点から子どもをみることができました。

前期研修の習得科目として，音楽（ピアノ，声楽），児童福祉，図画工作，保育原理，小児保健Ⅰ，小児体育，小児栄養（実習），児童心理学，保育実習Ⅰ，養護原理，教育原理，教育心理学，社会福祉などがあり，その他に体育，文学，生物，心理学，地学，社会学がありました。

大学の長い夏休みを利用して個人的にお願いし，日本で初めて保育園実習をさせていただくことができ，その後行われた大学の実習に役立ち，助かりました。しかし，理論的に学んだことを現場ですぐ実践することは難しいことを改めて知りました。その反面，学ぶことは多くありました。先生の保育のための準備の仕方，子どもとのいろいろな接し方，いろいろ反省させられることが多かったです。

後期研修の習得科目として言語，教育実習，乳児保育，小児保健Ⅱ，音楽リズム，絵画製作，精神衛生などがありました。又，幼稚園教育実習が3週間あり，ボリビアのことをいろいろ子どもたちに

聞かれながら楽しく過ごしました。

その他に夏休み，春休みを利用して，いろいろな形態の幼稚園，保育園で実習を行い，又，乳児院，養護施設，精神薄弱児施設などで実習をすることができ，大きな体験として心に残りました。

1年半を通して，幼稚園の先生としての大きな役割りを思い知らされ，これから真剣に取り込むことの必要性を感じました。

日本の子どもの色々な様子を知ることができてとてもよかったです。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

1年半学んでいるうちに，だんだん幼児教育についての重要性を知り自分でこれからも学んでいく必要性を感じました。

最初は，音楽，小児体操，図画工作などの技術を身につけ指導できるようになればいいと思っていましたが，それだけでは健全に成長できないような環境にも多くの子どもがいるということを，福祉についてのいろいろな学びを通して知り，子ども一人一人に，その環境に合った指導ができるようになる必要性を強く感じました。

子どもを見る目の視野を広げられたような研修ができよかったです。

7. 合同研修会について

大学への入学が日本について間もなくだったので，1ケ月センターでの日本語講習を受けることができず，同じ研修生との交流も少ない中で1年も離れることになったので，合同研修会でみんながセンターに帰ってきた時とてもうれしかったです。

それぞれの研修先のことや生活状況について話し合うことができ，はげまされたり，研修についての考え方を聞き，研修先では話せないこともみんなと話し，新しい心がまえで後期の研修にのぞむことができたと思います。

8. 本邦での生活状況

1年半，日本での生活はとても充実した毎日でした。センターでは他の国の研修生と一緒に生活をして，家族みたいに交わりを持ち，研修先では本当に良い友達に恵まれ，学園祭やグループ活動の時などいつも一緒に活動させてもらいました。又先生方は一つでも多くのことを経験させようといろいろなところに連れて行ってくれたり，実習先を紹介してくださったので，多くの幼稚園，保育園，施設で実習することができました。

実習も含めて行った両親の出身地沖縄では初めて会う親戚の方々にあたたかく迎え入れられ感動する日々でした。

いろいろな人々に出会うことができましたが，みんなやさしい人たちばかりでとてもいい思い出ができました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

研修生として日本に来ることは，自分の学びたいと思っていることが学ぶことができるうえに，とても大きな社会勉強にもなると思いますので，多くの人に来て欲しいと思います。そして自分が納得のできる研修をするためには自分で研修目標を具体的にもち，しっかりその旨を事業団に伝えることが必要だと思います。

10. 所感

小さい頃からの夢であった日本に来ることができてから，1年半はあっというまに過ぎてしまいました。

最初はみんなについて行けるかとても心配でしたが，やさしかった先生や友達のおかげで，1年半の大学の学びも無事終えることができました。

実習を通して幼稚園の先生，保母さんとの交わりも続き，各園の特徴，日本の子どもについての話もいろいろ聞くことができて良かったです。

最初，実習に行った園を見て日本の子どもは物質的に恵まれていていいと思いましたが，環境的にはあまり良くないのだと知り，そのような中での教育の大変さを少し知ったような気がします。

自分の国でも多くの子どもたちが養護を必要としているのだと考えることができるようになりました。

私には，移住地の幼稚園で，子どもたちに日本で学んだことを少しずつ伝えることしかできませんが，何かの形で子どもたちのために役に立てればという気持ちで，これからがんばって行きたいと思っています。

1年半，私たちの面倒を見て下さった国際協力事業団の方々，大学でお世話になった先生，職員の一人一人，出会った一人一人への感謝の気持ちは言葉では言い表わせないほどです。

これから研修生のためにも良いお仕事を続けることができますようお祈りします。ほんとにどうもありがとうございました。

米　倉　　輝

1. 研修機関　(1) 前期　福岡県立直方技術専門学校
　　(2) 後期　株式会社大同鉄工所
2. 研修期間　昭和62年4月～昭和63年9月
3. 研修職種　鋳造鋳物機械（フライス）

4. 当初の研修計画

昭和62年国際協力事業団第17回研修生として，日本で鋳物機械，出来るだけ鉄工関係の技術を学ぶ事，それに文化，習慣などを体験することを一番の目的に来日しました。

5. 研修概要

昭和62年4月～62年9月

福岡県立直方技術専門学校に研修生として入学しました。およそ160人の学生で鋳造科は25名，その中一人が21才の若い学生で残り24名は35から60才の人達で，なんだか老人学校で勉強している感じがしたのでよく調べて話を聞いてみると，彼らは，失業保険を受け取りに来ている人達でした。年齢，生まれた国，それに考え方がまったく合わないので日本に来たことを後悔していました。

横浜で日本語の講習を受けてないため読み書きの不自由が出て来て，学校での講義の時間はこまっていました。それに学校で実習をしていたことが自分が希望してたことでなかったので基礎訓練の試験が終り次第9月30日で退学しました。

昭和62年10月～63年9月

株式会社大同鉄工所

研修生として入社後1週間程度機械の扱いかた，それに砂の混ぜぐあいなどを見習い，まもなく本格的な鋳物の実習が始まりました。ダクタイル鋳鉄，ねずみ鋳鉄，鋳物でも色々な種類，勉強，それに覚えれば覚える程ど難しいことが明らかに分かりました。

昭和63年4月～63年9月

機械仕上に手を回しフライスの技術，手仕上げ作業，色々な機械の部品などを加工しました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

自分で予想してなかった事まで学ぶことが出来たと思います。

7. 合同研修会について

合同研修は私達にとって一番大切なComunicationだと思います。しかし研修期間の間一度というのは少し淋しいという気持が全員の心に多かったと思います。少なくとも6ケ月に1回，3ケ月に1回全員で色々な話をしたいと思います。

8. 本邦での生活状況

私の場合は旅館住まいでした。言葉，食事の面では何一つ不自由なく，少し田舎でしたがとっても良い所でした。しかし日本人との交流が少ないため寂しい気持ちが心に痛みました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

これからも大勢の研修生が参加するようお願いします。しかも全員が日本語の講習を受けられるよう心よりお願い申し上げます。

10. 所感

1年半を振り返ってみると早く研修期間が修了しました。技術的な勉強ではなく日本の習慣，文化，色々と体験することが出来ました。帰国後今まで学んだ技術を指導する立場になり多くの技術者をそだてようと思っています。

最後になり色々とお世話になった人々，国際協力事業団を初め研修先のみなさん，心よりお礼を申し上げます。今後機会があったら是非とも参加したいと思っています。

当　山　　満

1. 研修機関　(1) 前期　久保田鉄工株式会社，神奈川県経済農業協同組合連合会

(2) 後期　神奈川県経済農業協同組合連合会

2. 研修期間　昭和62年4月～昭和63年9月

3. 研修職種　農業機械整備（自動車整備）

4. 当初の研修計画

私はボリビア，サンタクルスで1年半の間農業機械の整備をしていました。ですが自分自身の技術に満足できず，また日本独特の農作業機械に対しても深い関心がありましたので（特にエンジン，ミッション，インジェクションポンプ），チャンスがあればぜひ日本のすぐれた進んだ技術を身につけたいというのが私の研修目的でした。

5. 研修概要

○昭和62年4月

海外移住センター

日本語講習，社会，音楽，地理，体育

○昭和62年5月～昭和62年6月

久保田鉄工株式会社

トラクターのエンジン，オールタネーター，セルモーター，オーバーホール

○昭和62年7月～昭和63年3月

神奈川県経済農業協同組合連合会

チェンソーのキャブレーターオーバーホール，バインダーのエンジンオーバーホール，トラクター整備

○昭和63年4月～昭和63年9月

神奈川県経済農業協同組合連合会

コンバイン整備，草刈り機エンジンオーバーホール，自動車整備，車検，板金

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

より良い作業機より強力な作業機械を考える上で私はエンジン，ミッション，インジェクションポンプに強く興味を持っていたので，エンジン部に多くの比重をおきたかったのです。久保田で行った1ケ月間の研修に関しては多少エンジンの実施，ミッションの見学を行なえることが出来てよかったと思いますが，短期間だったためとても残念に思います。

その後は一定に決められた作業（特に部品交換）にとどまった為，もう少しあたえられた研修期間を合理的に使いこなすことができれば もっと効果的だったのではないかと思います。

7. 合同研修会について

合同研修会はやっぱり必要だと思います。1年半の間には私自身もコミュニケーションという点で日本人たちとの意志の疎通がとれず，ホームシックになったこともあります。他の研修生たちも問題は違うにせよ，悩みをかかえていたのではないかと思うので，互いに同じ境遇の者同士，はげまし合う機会はできるだけ多い方が当然よいと思います。

8. 本邦での生活状況

日本の夏の暑さにはまいりましたが，来日2カ月目に風しんにかかった以外は病気もなく，気候的には非常に過ごしやすかったと思います。それに研修で疲れてセンターに戻ってきても，センターの設備はよく，快適な生活環境だったと思います。

私の場合，研修先が比較的遠かった為通勤が多少大変でしたが，夜センターに戻ってから他の研修生たちと話し，楽しい毎日を過ごすことができてとても良かったと思います。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

当初私は日本語が不自由であった。その為に苦しい思いもありました。だからもうすこし充分な日本語教育を自国で（渡航前に）受けることが必要だったと思います。けれどいったん日本に来てしまえば何とかなるものだとも思います。だから多少日本語が不自由でも日本語教育を同時に行なっていけば誰にでもこの素晴しい体験ができると思います。

もっともっとこの制度の門を広げて，より多くの人に素晴しい体験をさせてあげて頂しいと思います。

10. 所感

日本での研修は苦しい時もあり，楽しくもありました。しかし1年半の日本での生活は私にとって素晴しい体験であったと思います。日本で研修を受けた農業機械についても，人間関係についても良いためになる体験であったと思います。もうすぐ私はボリビアに帰り，日本で学んだことを実戦に移し生かして行きたいと思います。

日本の事，日本でお世話になった方々のことは決して忘れません。ボリビアで生かしていけるだけの勉強はできたと自信をもって言えます。

こんな素晴しい体験を与えて下さった方々に心から感謝します。JICAの皆様，1年半の間本当にありがとうございました。

山　城　千　景

1. 研修機関　(1) 前期　沖縄県「大育ビジネス専門学校」
　　(2) 後期　神奈川県「鎌倉市農業協同組合」
2. 研修期間　昭和62年4月～昭和63年9月
3. 研修職種　経理（農協簿記）

4. 当初の研修計画

ボリヴィアの移住地のためもっと知識と認識を深め役に立ちたいと思い技術の進歩している日本で農協簿記の基礎から学びたいと思い，また正しい日本語が話せるよう日本の社会はどういうものかいろいろ勉強したいと思いました。

5. 研修概要

1. 簿記の基本

資産，負債，資本，収益，費用，勘定，仕訳，転記，仕訳帳，総勘定元帳，試算表，決算。

諸取引の処理（仕訳・諸帳簿・伝票）

現金，預金，現金出納帳，当座預金出納帳，小口現金出納帳，有価証券，商品売買（3分法），仕訳帳，売上帳，商品有高帳，売掛金・買掛金・売掛金元帳・買掛金元帳，手形・受取手形記入帳・支払手形記入帳，固定資産，収益の費用，伝票。

決　算

試算表の作成，精算表の作成，勘定の締め切り，損益計算書・貸借対照表の作成

2. 原価と工業簿記

原価簿記，材料費・労務費・経費，製造間接費

部門費計算

個別原価計算，総合原価計算。

Ⅰ　期末仕掛品原価の計算と単純（単一工程）総合原価計算

Ⅱ　等級別総合原価計算

Ⅲ　連産品

Ⅳ　組別総合原価計算

工場会計，商的工業簿記と精算表

3.　情報処理Ⅰ

流れ図の作成，トレースの基礎，COBOLのプログラミング，コンピュータの機能と構成

4.　演習法人税法

法人税法Ⅰの「所得」，損益の期間帰属，たな卸資産，有価証券，減価償却，役員の報賞与，退職給与，退職給与引当金，受取配当等の益金不算入，その他の損益

5.　演習所得税法

利子所得，配当所得，不動産所得，事業所得，土地建物の譲渡所得，給与所得，一時所得，雑所得，山林所得，退職所得

6.　秘書概説

秘書の意義と位置づけ，アメリカの秘書・日本の秘書，秘書の職能，秘書の資質と条件，秘書と人間関係

7.　経理課員のペン習字

簿記の原価と簿記用ペン字，経理課の書式，社外文書例文集

8.　文書作成（ワープロ）

入力文書作成・技術常識，国語力

9.　その他，そろばん，英語，経済，生け花

成果

1.	工業簿記能力検定科目合格証書	1級
2.	簿記能力検定合格証書	2〃
3.	情報処理検定合格証書	3〃
4.	秘書能力　〃	3〃
5.	文書処理能力検定合格証書	3〃
6.	税務会計能力　〃	3〃
7.	ペン字書写技能力　〃	3〃
8.	珠算能力検定合格証書	4〃
9.	英語検定合格証書	4〃

以上のことを大育ビジネス専門学校OAビジネス科1年課程で勉強して来ました。

後期の6カ月間は，神奈川県にある「鎌倉市農業協同組合」総務部総務課で簿記の実施研修をさせて頂きました。

総務課では，本支店の仕訳，ワープロ，経理を締めたり，端末機を打ったり，お茶くみをしたり，職員

と同じようなことをさせて頂いてましたが，現在の日本は何もかもがコンピュータ時代に変わっているため，鎌倉市農協ではこれから国へ帰って私がする仕事とはちょっと違った帳簿のつけ方をしていました。

農協の帳簿の流れはほとんど機械で打ちこまれるため余り深く理解することは出きませんでしたが，回りの雰囲気，農協の流れ，お客様の接し方などの礼儀作法を勉強させて頂きました。

そして，鎌倉市農協では，経理を締めたり，計算する時は，皆そろばんを使って仕事してました。おかげで私は前より早くそろばんをはじけるようになり，これからもずっとそろばんを使って仕事をがんばっていきたいと思います。

そして9月16日の日は鎌倉見物をし，夜から18日にかけては職員旅行で四国までつれて行ってもらい，鎌倉市農協の皆さんとは大変良い思い出をつくることができました。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

日本に来る前は自分の思っている希望を実現できるか，不安な気持でしたが，この1年半を通してみて，自分の希望以上のことをいろいろ学び知ることが出き，とても満足に思っています。

この1年半に様々な日本人と付き合っている内に前よりは言葉の使い方，敬語，また沢山の漢字の読み書きができるようになりました。

これまで学んだこと，経験したことをボリヴィア国の移住地に帰ってからも生かしていきたいと思っています。

7. 合同研修会について

今までの研修生達は半年ごとに集まり合同研修会を行っていたようですが，残念ながら私達の時は1年後でした。でも1年振りに皆海外移住センターにもどって来，久し振りに兄弟が集まったようでとてもうれしかったです。

そしていろいろと意見の交換をしたり，研修中苦しかったこと，さみしかったこと，楽しかったこと等を語り合い，最初の頃は皆余り上手でない日本語を話していましたが，各県に分かれて研修先へ行ってそこの方言を覚え，1年半でいろいろな県の言葉を話せるようになって来ました。

今までボ国で体験できなかったことを日本に来て体験することが出来，大変よい勉強となりました。

また，日本の文化，風俗，習慣等も味わうことができ，本当に満足に思っています。これからも研修生達のために合同研修会は必要だと思いますので是非続けていただきたいと思います。

8. 本邦での生活状況

前期の1年間は両親の故郷である沖縄県で勉強させていただきました。沖縄に着いて間もなく学校に入り，見知らぬ人達と一緒に勉強するのはとても不安な気持でしたが，友達もでき，色々教えて頂き，またボリヴィアのことを話し合ったり，沖縄のことを聞いたりして友達になりました。最初は日本語を話せないと思っていたようで，日本語でしゃべるとびっくりしていました。

休みの日には友達や親戚の方々，県内の留学生や研修生達と観光地を見学したりしてとても楽しい思い出もたくさんつくりました。

後期からは，横浜の海外移住センターへ移り「鎌倉市農業協同組合」で実施研修を受けることになりました。

沖縄県での研修も大変よかったけれどこの6カ月間を過ごしてみて，私は本当に横浜の方に来て良かったと思っています。とても少い6カ月間でしたが，同じ研修生達と一緒に移住センターで住むことができ，また毎日忙しく働く日本の人びみの中で暮し，日本の社会がどういうものか知ることができました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

研修生のみんなの学びたいことや勉強してみたいこと等，それぞれ違うと思います。自分がどのような目的で，何について学びたいかをはっきりと把握して日本に来るとよいと思います。

そして少しでも多く日本語の読み書きをマスターしておく必要があると思います。そうすれば，いろいろこれから私達が学んでいく専門用語や本や小説等を簡単に読めるようになり，また今までとは違った目でもっと広く日本の社会を知ることが出きると思います。

10. 所感

日本に行き，日本で勉強したいという気持を持ちなにか日本で自分に資格が取れるよう勉強したいと思い国際協力事業団移住者子弟技術研修生制度に応募し，運よく日本に来ることが出きました。でもあっという間に1年半がうそのように過ぎてしまいました。

前期の研修は簿記の専門学校でしたので毎日が勉強で忙しく，辛い時，嬉しい時，悩みなどもありましたけれど，その為に以前よりは自分なりに成長し，勇気がもてるようになったと思います。

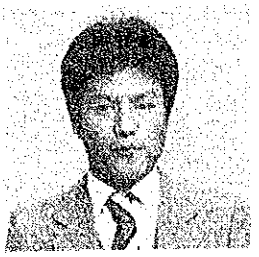
日本に来る前までは，自分の回りの人達のことだけしか知りませんでしたが，日本に来て南アメリカの各国の研修生達とも知り合うことができ，また研修先の皆さんともめぐり逢うことができてとても光栄に思っています。この1年半を通してボリヴィア国にはない多くの新しい今まで見たこともない，聞いたこともないことを身につけることができました。

帰国後は，鎌倉市農業協同組合で簿記の実施研修として学んだこと，また神奈川県中央会を通して神奈川県農協教育センターで職員研修会にも出席させていただいたこと，また伊勢原農業協同組合のなしがりや農協で運営している伊勢原協同病院など，いろいろ見学させてもらったことを全て生かすように努力して行きたいと思います。

私達にとって一生忘れることのできない研修生活を送らせてもらいました。

国際協力事業団の皆さん，沖縄支部の皆さん，大育ビジネス専門学校の先生方，そして鎌倉市農業協同組合の皆様，本当に長い間いろいろめんどうを見て下さいまして心からお礼申し上げます。

どうもありがとうございました。



加　藤　　忠

1. 研修機関　(1) 前期　筑波久保田鉄工㈱，平塚市中央農業協同組合

(2) 後期　㈱フタミ広島屋，南大阪支店小松製作所指定工場

2. 研修期間　昭和62年4月～昭和63年9月

3. 研修職種　農業機械整備

4. 当初の研修計画

私がこの研修制度に参加したのは，ボリヴィアで多くの農家の人達が機械の故障で困っていることがよく見られたからです。

そこで私は，農業機械整備の為の技術を学んで，又その中でもまだ海外ではあまり知らされてないような技術を身につける事が当初の計画でした。

5. 研修概要

前期研修では，筑波久保田鉄工にて62年5月18日から62年6月17日までやく1ケ月間農業機械整備の講習を受けました。研修内容としては，トラクターとインプルメントが主とした研修でした。この1ケ月間あまりの研修が，それから先の研修に心強い気持をあたえてくれました。

その後62年6月18日から63年3月25日まで平塚市中央農業協同組合で実施研修をさせて頂きました。研修内容としては，シバウラ，キセキ，ヤンマー，ファーガソン，久保田，三菱，共立，その他色々なメーカーの機械を扱うことが出来て沢山の技術を身に付けることが出来ました。

最後の後期研修では，南大阪支店小松製作所指定工場で63年4月7日から9月9日まで実施研修をさせて頂きました。研修内容としては，ディーゼルエンジン又油圧関係が主でした。しかし研修先での状況がよくなかった為，あまり良い勉強にはなりませんでした。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初の研修計画としては，農業機械の技術をはばひろくマスターすることが目的でした。

初めの前期研修では，農業機械の講習，又は実習もじゅうぶんに出来ましたが，しかし最後の後期研修で時間のロスが多くじゅうぶんな研修が出来なかった為残念に思いました。

7. 合同研修会について

合同研修会があることはとても良いと思います。日本へ初めて来て先輩達からのアドバイスや自分達が体験した事を色々と話し合えて，これから先何かに役立てることが出来ると思います。

8. 本邦での生活状況

とくにこの1年半の研修生活の中で感じたことは，後期研修で大阪の方へ行った時です。私は以

前横浜海外移住センターで生活しましたが，その後大阪にかわってまわりのかんきょうもかわり，初めの内はなかなか会社の人達の中にとけこめず寂しい思いをしました。

9. 今後の子弟研修制度に対する提言及び要望事項

もしチャンスがあれば来る前に多くの日本へ来たことがある研修生と色々と話をし，その上で自分の希望をはっきりしたほうが良いと思います。

10. 所感

もう早1年半の月日となって皆様とおわかれの日がきました。私にとってこの1年半の研修は，色々なすばらしい体験が出来て一生忘れられないことだと思います。これから祖国へ帰っても日本で身に付けた技術を出来るかぎり生かしたいと思っています。

最後になりましたが，国際協力事業団の皆様，そしてその他の皆様に厚くお礼申し上げます。本当にこの1年半どうもありがとうございました。

仲　松　エレナ

1. 研修機関　(1)前期　昭和62年5月18日～63年3月31日
三重大学水産学部
(2)後期 (1)昭和63年4月1日～7月31日　水産庁東海区水産研究所
(2)昭和63年8月1日～9月24日　北海道立釧路水産試験場

2. 研修期間　昭和62年4月3日～63年9月30日

3. 研修職種　水産食品加工

4. 当初の研修計画

日本で最も消費されている水産食品の加工方法を学び、その中で特に海藻の利用及び加工に興味を持っていました。そして日本語の正しい読み書き、日本の社会と文化についていろいろ知ろうと思っていました。

5. 研修概要

日本で18ケ月の期間に三重大学、東海区水産研究所、北海道立釧路水産試験場で学んだ事をまとめて下記のとおりです。

1）海藻の各種成分分析方法

- 蛋白質の定量（ケルダール法）
- 粗脂肪の定量

- 脂肪酸組成（ガスクロマトグラフィ）
- 糖質の定量（フェノール硫酸法）
- エキス成分
- 遊離アミノ酸（ニンヒドリ発色法）
- アミノ酸分析（アミノアナライザ）
- 蛋白質の定性分析（電気泳動）
- ビタミンA、B1、B2、Cの定量
- 多糖類の抽出（アルギン酸、ポルフィラン、フコイダン、ラミナラン、マニトル）
- フコステロール定量

2）海藻の加工について三重大学で、青のり（ヒトエグサ）と黒のり（アサクサノリ）を使用して新製品の試作を行いました。はるさめ、そば、ピザパイ、ジャム、インスタントスープ、クレープに青のりまたは黒のりを混ぜ、味を良くし、より栄養価を高める試作をしました。

3）魚介類の加工について次のとおり実習を行いました。

- 三重大学製造実習で

  ちくわの製造、フイッシュスティック、缶詰の原料処理から製品作りまで

- 釧路水産試験場で

  ソフトサキイカ、カジカ圧焼製品、松前漬け，くん製品（スモークサーモン、カラスガレイ）原料処理から製品までの工程。

- 織田昆布店で

  とろろ昆布、おぼろ昆布、昆布の佃煮、昆布の包装。

- 津山（昆布）漁業部

  羅臼で養殖しているオニ昆布の乾燥工程

- 釧路水産振興センターで

  いわしの加工（マリネー、甘露煮、かば焼、みそ糖漬）

4）次の食品加工会社を見学しました。

- カゴメ株式会社（ソース、ジュース、トマトペースト）
- カネハツ食品（佃煮、煮豆、漬物，サラダ）
- 名古屋製酪（牛乳、ヨーグルト、マーガリン、バター、レトルト食品）
- 中野のり店（焼きのり、味漬けのり）
- 南西物（ワカメ、ひじき、あらめ）
- 小林のり工場（養殖、干しのり）
- 日本水産（ちくわ、ハンバーグ、ソーセージ）
- カンロフーズ株式会社

- 小田原かまぼこ会社
- 根室の三友株式会社（新巻　、いくら）
- 根室水産振興センター
- 標津漁業協同組合
- 常呂の新谷商店（ホタテガイの乾燥）
- 佐呂間の北勝水産（ホタテガイの冷凍）
- 一正かまぼこ
- 佐藤水産（スモークサーモン、サーモンハム、いずしなど）
- 日魯漁業株式会社（鮭，ますの缶詰）
- 釧路ハイミール
- 及川水産株式会社（すりみ工場）
- 金井漁業（すりみ工場）

見学、実習では製造工程だけではなくて、日本の食品工場が実働している様子を此の目で見る事ができ、日本の食品の質が高い理由を確かめる事ができました。私にとって良い経験になりました。

6. 当初の研修計画と実際の内容と比較して

日本は世界一の水産物利用国で、分かっていましたが実際にその食生活に接すると驚くほど水産物を消費していると思います。一人一日当たり100g消費されています。その水産物に関する技術もたいへん発展しているので、当初の計画よりも、期待していた以上に勉強ができました。三重大学では海苔の成分分析と加工法の他に養殖、販売法も知る事ができ、東海区水産研究所では昆布の分析、日本の食生活について色々聞かせてもらいました。釧路水試では実際に製品を作ったり昆布を煮したりしてハードスケジュールでしたが本当に良い勉強になりました。主な水産食品工場も見学させていただいて計画よりも多くの事を学びました。しかしペルーと日本は食生活も違いますので、学んだ事をすべて応用できませんが、私にとって良い参考になりました。

7. 合同研修会について

合同研修会では日本語の勉強ができ、日本の社会について学べてよかったです。同じ研修生達と友達になり、それぞれの研修先での体験を聞いたり話したりする事は大切だと思います。合同研修会は6ケ月に一回あった方が良いです。

8. 本邦での生活状況

大家族の私、日本で初めて一人で住み、前期三重県で住みなれない下宿で一人のさみしい生活が2ケ月くらい続きました。でも、大学の先生方や仲間たちのおかげで宿も住みやすい所になり、友達も沢山できて早く慣れました。漢字の読み書きが不自由で言葉もよく通じないので心配でしたが、研究室の皆さんに親切にしていただいて勉強もしやすくなりました。私は三ケ所で研修し、大部分の時間大学や研究所で過ごしたのでその生活について、やはり日本では上の人がよく働くから皆その例にし

たがってよく働くのだと感じました。これを見て先輩と後輩という言葉の意味が理解できました。一方日本は南米と比べたら物価は高いですが安定しているし、品物もそろっているからその点について問題はありませんでした。日本で春夏秋冬はっきりして、春は桜の花が見られ、秋は素晴しい紅葉を見て何とも言えない気持ちになりました。冬は寒くて大変でしたが夏は蒸し暑くてもっと苦しかった。この一年半の生活にいろいろ楽しい事や苦しい事もありとても良い体験になりました。

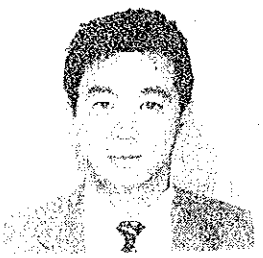
9. 今後の子弟研修生に対する提言及び要望事項

日本に来る前、日本語の読み書きを勉強して来た方が研修はもっとためになると思います。研修の目的、自分の希望をはっきりさせたら研修はうまく行くと思います。

10. 所感

幼いころから父母から日本の話を聞き日本に来るのは私の夢でした。大学卒業して三年後やっと夢が叶うようになりました。研修も希望通りさせていただいて、回りの人たちのおかげで楽しく勉強ができ日本の生活状況、習慣、教育について色々知る事ができてこの一年半あっという間に過ぎてしまいました。日本の良いところとペルーの良いところを選んで私の理想の国を作って帰ります。その日本の良いところを皆に話したいと思っています。ペルーで水産関係の研究所か工場につとめて日本で学んだ事を生かしたいと思います。国際協力事業団、先生方、友達のおかげで一年半の研修が無事に終わり楽しい思い出がたくさんできて心から皆様に感謝しています。

佐　藤　康　樹



1. 研修機関　(1) 前期　福島県会津農業センター
　　(2) 後期　山梨県果樹試験場
2. 研修期間　62年4月～63年9月
3. 研修職種　果樹（落葉果樹栽培）

4. 当初の研修計画

私の出身であるドミニカ共和国では落葉果実は殆とんど輸入に頼っている。我が家では3年前から落葉果樹栽培を始めたが栽培技術が足りない。私は落葉果樹一般の栽培について学びたかった。

5. 研修概要

会津農業センターはリンゴマルバ台50a、低木台20aとブドウ40aを栽培管理している。私は果樹を担当している第3経営班で実習研修を行なった。日本は四季がはっきりしており春の開花期などは一面に花畑となりとてもキレイだ。

摘粒、摘花、摘果はその年の収量を左右するとても大切な作業である。一般的には中心果を残す一輪摘果を行なう。ところが何千何百万とある花（果実）を手で摘むのだから大変な労働である。栽培

面積があまり広くない日本だから可能なのだ。栽培面積が広い南米で は薬剤使用による人工摘果が好ましいと思った。実験的にデナポン水和剤を散布し対象として一般に行なわれている手作業摘果と比較してみたところ、薬剤散布区は一般区の6分の1の労力時間で出来た。だが我が家が位置する海抜1400m地帯では四季の区別がはっきりせず開花期が揃わない可能性があり工夫が必要である。他に夏期剪定、フェロモントラップを使用した病害虫調査、着色管理、収穫、果実分析調査、販売冬期剪定などの作業を行なった。会津地方の冬は雪が深くて大変であった。枝に雪が積もると折れるので雪が降るたび雪はらいと雪かきを行なった。昨年の冬は例年より雪が少ないとのお話でしたが、それでも80cmも積もり剪定作業がつらかった。けれども、収穫の次におもしろい作業だと思った。後期の6ケ月間は山梨県果樹試験場で研修した。ここでは落葉担当とブドウ担当に分かれており、それぞれに3ケ月ずつ研修させて頂いた。現在栽培されている落葉果樹の多くは他花受粉のため他種の昆虫による自然交配が望ましいが結実の安定、果実の品質向上から人工交配が行なわれている。人工交配は葯の採取から始まる。開葯直前の花を取り採葯機で花の葯を取りふるいにかけて葯だけを選別して28~30℃に定温された開葯機に20時間程入れておくと開葯し花粉が取れる。採取した花粉を羽などに付着させて花をやさしくなでる感じで交配する。交配前に発芽試験を行なう。発芽率が25%以下は好ましくない。結実した果実は1週間くらいで肥大を始める。交配により種子が入ると果実の肥大は良く、変形果が少なく玉揃いが良く品質が向上する。ブドウ担当では色々な品種を栽培している。巨峰、ピオーネ、デラウェアー、ネオマスカット、甲州、赤嶺、リザマート、リッシバーバ、バラディー、ルビーオクヤマ、ピッテロピアンコ、北光、etcと大変な数である。試験場では毎年ブドウの解体調査を行なう。糖度、配度、房重、房長、粒重、etcを追跡的に調査した。他に植物生長制剤（エルノー）を散布して新梢、副梢の生長調査を行なった。植物生長抑制剤を散布することにより新梢や副梢の生長が止まると、葉で作られた養分が果房に移り、果実の糖度、及び着色が良くなり果実の品質向上が得られると考えられる。

6. 当初の研修計画と実際の研修内容とを比較して

当初我が家ではリンゴを主とした果樹園だったので、リンゴの栽培から学び始めた。けれども後にリンゴの他にブドウ、柿、モモ、スモモ、ネクタリンの栽培についても学ぶことが出来ました。当初の研修計画と実際の研修内容とを比較すると、思っていたよりも多くの事について学ぶことが出来たのでとても為になり良かった。

7. 合同研修会について

昨年9月の合同研修会が無かったことはとても残念だった。今年4月の合同研修会で伊豆のバナナワニ園へみんなで行きとても楽しかった。南米では見なれていた植物を日本で見た時、とてもなつかしく思えた。1年ぶりに仲間達と再会し自由にポルトガル語、スペイン語で話し合えストレス解消になったことは後期研修に対して大きな励みになった。

8. 本邦での生活状況